

33

13

禁電

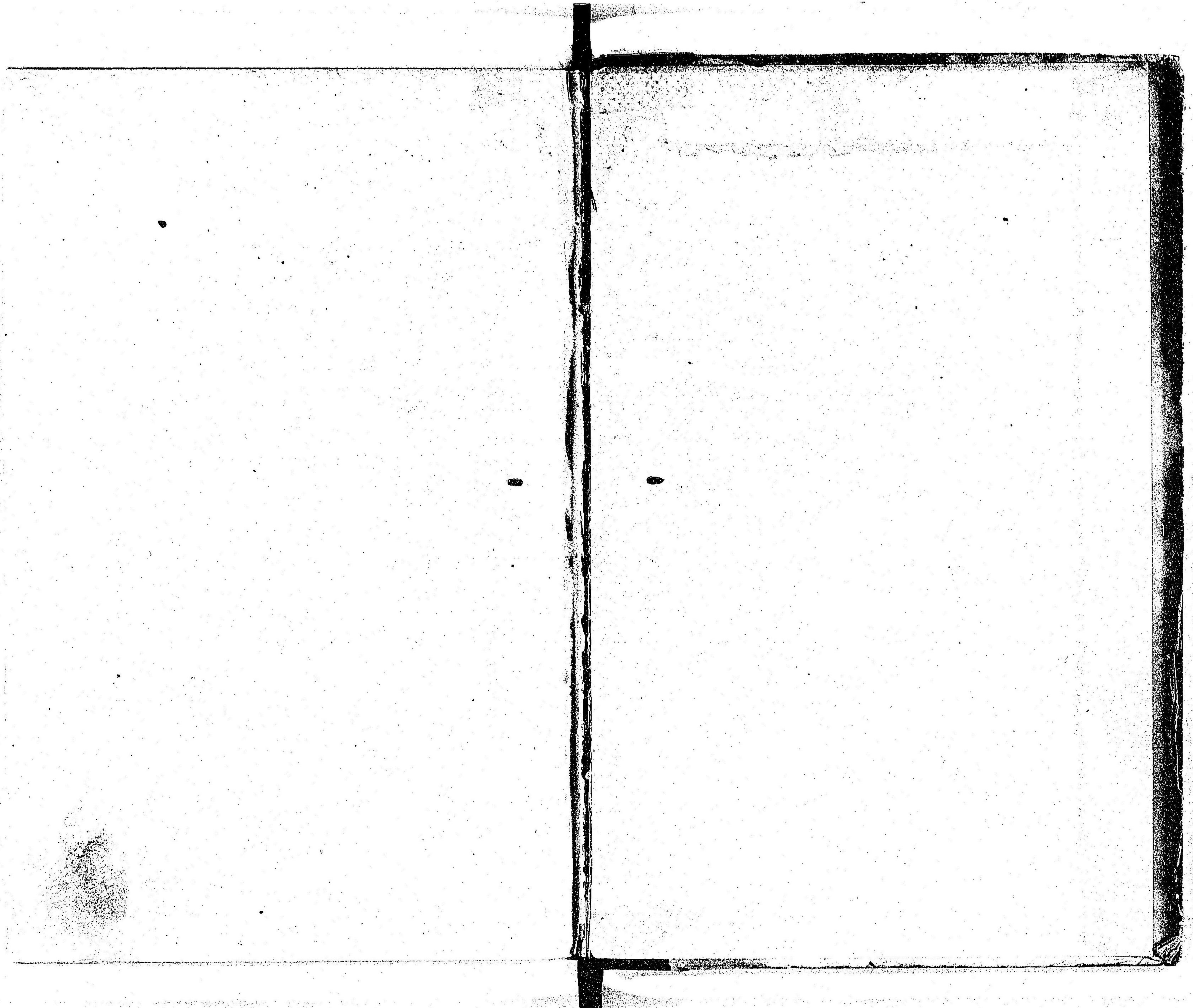
司法省藏版

白耳義刑法

完

明治十五年六月印行







東亞圖書公司

哥倫比亞省藏版

# 白耳義刑法

明治十五年六月印行

白耳

義

刑

法

完



白耳義刑法

目次

第一卷 犯罪及七處刑

第一章 犯罪

第二章 刑名

第一套 各種刑屬

第二套 重罪律

第三套 懲治獄

第四套 違警獄

第二第三第四套通用律

第五套 輕重罪通用律

第六套 三罪通用例



丁數

一三一 二二二 三三三 七九九 九九三



二

第三章 輕重罪及ヒ違警罪補

一五

第四章 輕罪若シハ重罪ヲ犯サントスル者

一七

第五章 再犯

一八

第六章 數罪俱ニ發ス

二〇

第七章 衆人共ニ輕重罪ヲ犯ス

二一

第八章 免罪減刑

二三

第九章 情狀斟酌ス可キ者

二六

第十章 罪限

二九

總規則

三二

第二卷 各種犯罪

三三

第一篇 國家安寧ヲ害スル輕重罪

三三

第一章 國王王族及ヒ建國ノ犯及ヒ其結黨

三三

三

第二章 外患ヲ起ス輕重罪

三六

第三章 內國ノ安寧ヲ害スル重罪

四〇

本篇通用法

四四

第二篇 建國法ニ定ムル國民權利ヲ害スル輕重罪

四四

第一章 公權ヲ妨グル輕罪

四五

第二章 信奉ヲ害スル輕罪

四六

第三章 諸官吏憲法ニ背キ人ノ權利ヲ害ス

四八

第三篇 偽造律

五三

第一章 貨幣贗造

五三

別殊ノ條款

五五

第二章 國債證券、券書、借財證券、利符、銀行紙券贗造

五六

及ヒ變造

五六



四

第三章 印章、證印、極印、符號等偽造及ヒ變造

五七

前三章通用法

六一

第四章 書寫電報ノ偽造

六二

第一套 公私商賈ノ偽書

六二

第二套 旅券、佩兵免狀、冊子、兵役ノ路券、其他諸證

券ノ偽造

六三

第三套 電報ノ偽造

六七

以上四章ノ通用法

六八

第五章 偽證及ヒ偽誓

六八

第六章 官職ヲ篡奪シ稱號姓名ヲ冒稱ス

七一

第四篇 官吏、僧徒、公務、說教ニ因テ安寧ヲ害スル輕重

罪

七三

第一章 官吏ノ通謀

七三

第二章 施政、司法兩省互ニ其權ヲ相侵ス

七四

第三章 官吏公私ノ貨物ヲ私シ又ハ聚斂ス

七五

別殊ノ條款

七七

第四章 官吏財ヲ受ク

七七

第五章 官吏威福ヲ擅ニス

八〇

前數章通用法

八二

第六章 官吏進退去就ノ際分外ノ職ヲ侵ス

八二

第七章 戶籍調査ニ關スル輕罪

八三

別殊ノ條款

八四

第八章 說教僧徒職務上ニ犯ス有リ

八四

五

第五篇 常人靜謐ヲ害スル輕重罪

八五



六

第一章	抗法	八五
第二章	宰相立法官員全權官吏ニ對スル不敬及 ヒ暴行	八七
第三章	緘印破毀	九〇
第四章	公業ヲ妨害ス	九二
第五章	供給者ノ輕重罪	九三
第六章	著述者ノ姓名及ヒ著述者若シハ印刷者ノ 居所ヲ記セサル印刷書類	九五
第七章	賑給票賭房及ヒ典鋪ニ關スル犯罪	九六
第八章	製造賣買糶賣ノ犯罪	九八
第九章	靜謐ヲ害スル雜犯	一〇〇
第一套	墳墓ノ規則ヲ犯ス	一〇一

七

第二套	製禁兵器ノ犯罪	一〇一
第三套	獸類ノ流行病ニ關スル犯罪	一〇二
第六篇	安寧ヲ害スル輕罪	一〇三
第一章	人身又ハ財産ヲ犯ス結黨	一〇三
第二章	人身又ハ財産ヲ害セントスル脅迫	一〇四
第三章	脫監越獄	一〇六
第四章	配所逃亡及ヒ罪人ヲ伏匿セシム	一〇九
第五章	浮浪乞丐ノ徒靜謐ヲ害スル輕罪	一一〇
第七篇	民生及ヒ風俗ニ關スル輕重罪	一一一
第一章	墮胎	一一一
第二章	棄兒放兒	一一三
第三章	民生證據ヲ害スル輕重罪	一一五



別殊ノ法

第四章 幼者ヲ誘拐ス 一一七

第五章 犯姦 一一九

第六章 少年ノ淫事 一二二

第七章 風俗ヲ害スル犯罪 一二三

第八章 姦婦姦夫及ヒ一人雙婚ヲ爲ス 一二四

第八篇 人ヲ害スル罪 一二五

第一章 構意殺傷 一二六

第一套 人命犯區別 一二六

第二套 故殺ニ非スシテ構意ヲ以テ殺ニ致シ  
及ヒ構意傷 一二七

第三套 殺毆傷ノ宥恕ス可キ者 一三一

第四套 殺毆傷ノ無罪 一三二

第二章 過失殺傷 一三三

第三章 決闘 一三四

第四章 常人各民自主ノ權ヲ犯シ及ヒ人ノ居宅  
ヲ犯ス 一三七

第五章 人ノ名譽ヲ害ス 一四〇

別殊ノ法 一四五

第六章 人ヲ害スル雜犯 一四五

第九篇 財産ヲ犯ス輕重罪 一四七

第一章 竊盜及ヒ強奪 一四七

第一套 暴行及ヒ恐喝ヲ用ヒサル盜 一四八

第二套 暴行恐喝劫迫ヲ用フル盜 一五〇



第三套 本章通用語

一五三

別殊ノ箇條

一五五

第二章 欺詐

一五六

第一套 分散

一五六

第二套 擅信

一五七

第三套 欺詐財ヲ奪フ

一五九

第四套 輕重罪ヲ犯シ得タル物件ヲ藏匿ス

一六二

第五套 欺詐雜犯

一六三

第三章 破壞毀損

一六五

第一套 放火

一六五

第二套 造營物蒸氣器械及ヒ電信器械ヲ破毀

一七〇

ス

第三套 墳墓碑觀製作物及ヒ證券記錄書類ヲ

一七一

破毀ス

第四套 諸賣品及ヒ其他ノ動産ヲ破毀ス

一七二

第五套 耕作物植物苗穀物及ヒ農具ヲ毀損若

一七四

シハ荒掠ス

第六套 獸類ヲ殺傷ス

一七五

第七套 以上諸套通用法

一七八

第八套 墻垣ヲ破リ或ハ疆界標ヲ棄テ或ハ之

一七八

ヲ移轉ス

第九套 水ヲ灌キ破壞ス

一七九

第十篇 違警

第一章 第一種違警

一八〇



第二章	第二種違警	一八四
第三章	第三種違警	一八八
第四章	第四種違警	一九一
以上四章通用法		一九三
假規則		一九三

目次畢

白耳義刑法 白耳義官版

今村和郎譯

第一卷 犯罪及ヒ處刑

第一章 犯罪

第一條 凡ソ重罪律ヲ以テ論ス可キ者ハ皆ナ重罪トス  
輕罪律ヲ以テ論ス可キ者ハ皆ナ輕罪トス

違警律ヲ以テ論ス可キ者ハ皆ナ違警罪トス

第二條 何ノ罪タルヲ論セス所犯頒降以前ニ係ル者ハ其律ヲ以テ處  
スルヲ得ス  
然レモ若シ所犯頒降以前ニ係リ其律ニ新舊異同有ル者ハ其輕キニ  
從テ擬斷ス可シ

一 第三條 凡ソ所犯白國內ニ在ル者ハ内外人ヲ論セス皆ナ白國律ノ處



二 分ヲ受ル者トス

第四條 凡ソ所犯白國外ニ在ル者ハ内外人ヲ論セス別ニ定法有ルニ非サレハ白國ノ法ニ處セス

第五條 凡ソ本律ハ犯罪ノ諸軍律ニ據テ處ス可キ者ニ施スヲ得ス

第六條 凡ソ本律中ニ正條ヲ掲ケスシテ他ノ條例ニ規則アル者ハ各其條例規則ニ據テ處ス可キ者トス

第二章 刑名

第一套 各種刑屬

第七條 凡ソ刑ノ施ス可キ者左ノ如シ

重罪刑四

一 死刑

二 懲役

トラボーホルセ

三 禁錮 政事上ノ犯罪ヲ處ス(錮)

四 監役 牢中ニテ老幼婦女ヲ執ラシムル之ヲ監役ハト云フ(此刑ハ懲役アリ)

輕罪條及ヒ違警罪條一

一 囚獄

輕重罪條二

一 民權及ヒ政權ノ幾分ヲ剝奪スルノ刑

二 番人ニ送致スルノ刑

輕重罪條及ヒ違警罪條二

一 罰金

二 沒入 原文「スペシヤール」ノ字ヲ加フ「スペシヤール」ノ没入ハ別人ノ財

産ヲ沒入ハス(此刑ハ歐洲各國ノ廢物品ヲ沒入「スペシヤール」)

第二套 重罪律



四

第八條 凡ソ死刑ニ該ル者ハ斬首タル可シ

第九條 凡ソ斬刑ハ其判決狀ニ示セル地ニ於テ公ケニ之ヲ行フ可シ  
刑人ハ僧ヲ伴ハシメ牢車ヲ以テ處刑場ニ送致セラル、者トス  
是ニ於テ刑架ノ下ニ引キ且ツ直ニ斬ヲ行フ可シ

第十條 凡ソ遺骸ハ親族請フ者アレハ下付シ儀ヲ用ヒス埋葬セシム

凡ソ斬刑ハ國祭日、宗敎祭日、日曜日ニ行フヲ得ス

第十一條 凡ソ懷胎ノ婦女斬ニ該ル者ハ其分身後ニ非カレハ處スルヲ得ス

第十二條 凡ソ懲役ト稱スル者ハ無期有期ノ二等トス  
有期懲役モ亦二ツアリ一ハ十年ヨリ十五年ニ止マリ一ハ十五年ヨリ二十年ニ止マル

第十三條 凡ソ監役ハ五年ヨリ十年ニ止マル

第十四條 懲役ノ者ハ懲役場ニ入ラシム可シ監役ハ監屋中ニ入ラシム可シ

第十五條 凡ソ懲役監役ハ各業ヲ課シテ使役セラル、者トス  
役ニ依テ得タル賃銀ノ一分ハ之ヲ官ニ貯ヘ滿期出場ノ時若シハ出場後給與ノ定期ニ至リ之ヲ給付ス可シ

監役ハ其賃銀十分ノ四ヲ給シ懲役ハ其十分ノ三ヲ給シ餘ハ皆ナ官ニ收ム  
官ヨリ右貯金ノ半ヲ以テ其受役中ノ用ニ供ス可ク若シハ其親族ニ要スル所以アレハ之ニ給ス可シ

第十六條 凡ソ禁錮ハ無期有期二等トス又有期禁錮ヲ分チ尋常非常

五

トス



六

又尋常禁錮ヲ分チ二等トシ一ハ五年ヨリ十年ニ止マリ一ハ十年ヨリ十五年ニ止マル

非常禁錮ハ十五年ヨリ少ナカラス二十年ヨリ多カラサル者トス

第十七條 凡ソ禁錮場ハ上裁ニ依テ刑場ヲ定ム即チ堡内監役ニ同シ

第十八條 凡ソ死刑若クハ終身禁錮若クハ終身懲役ハ其犯由ノ略ヲ

印行シ犯所及ヒ裁判所ノ邑ニ揭示ス可シ死刑ハ又其處刑ノ邑ニ掲

示ス可シ

第十九條 凡ソ死刑、懲役、終身禁錮、有期非常禁錮ノ監役等ニ坐スル者

ハ其罪案ニ位、職、官、剝奪ノ故ヲ記載ス可シ尋常禁錮ニ坐スル者モ亦

重罪裁判所ニ於テ其官位職掌ヲ剝奪シ得可シ

第二十條 凡ソ罪死ニ該ル者ハ皆テ治産ノ禁ヲ兼ヌ

第二十一條 凡ソ左ニ載スル二條ノ罪囚ハ其受刑中治産ノ禁ヲ受ル

者トス已レノ財産ヲ自己ニ管理スルヲ得サルナリ

第一 懲役、監役、終身禁錮及ヒ有期非常禁錮

第二 再犯若クハ數重罪ヲ犯スニ因テ尋常禁錮ニ坐スル者

第二十二條 凡ソ治産ノ禁ト稱スル者ハ自カラ其財産ヲ管理スルヲ

許サ、ルヲ云フ若シ遺書ヲ以テスル者ハ此例ニ在ラス治産ノ禁ヲ

カラ其財産ヲ管理スルヲ得ス然レモ身死スル後ハ其遺書ヲ以テ處分スルヲ得

治産ノ禁ハ罪狀判決ノ日ヨリ受ケシムル者トス

第二十三條 凡ソ治産ノ禁ヲ受ル者ノ爲メニハ別ニ其財産管理人ヲ

命ス其法及ヒ管理法ハ民法治産禁ノ後見人ノ法ノ如シ

第二十四條 凡ソ治産禁ヲ受ルノ間ハ産業即チ自己ノ歳入ヲ受理ス

ルヲ許ス可カラス

七

第三套 懲治獄



八

第二十五條 凡ソ懲治ノ獄ハ八日ヨリ少ナカラス五年ヨリ多カテサル可シ然レモ若シ國法中別例ニ係ル者ハ否ラス

獄一日ト稱スル者ハ二十四時間トス[獄一月ト稱スル者ハ三十日トス

第二十六條 凡ソ懲役ノ罰ヲ受ル者ハ懲治舎ニ入ラシム可シ

舎ニ入ル者ハ舎内規則ニ依リ使用ス若シ特令ヲ以テ免ルス者ハ否ラス

第二十七條 凡ソ罪囚懲治獄中ノ力役ヲ以テ得ル所ノ資産ノ一分ヲ

囚人ニ給シ其囚徒ヲシテ幾許カ便ヲ得セシムル爲メニ之ヲ即給シ他ノ一分ハ豫メ官ニ貯ヘテ以テ他日其出獄ノ時ニ給シ生業ノ一資トセシム蓋シ獄中ニ即給スルノ事ハ其懲惡ノ徴有ルニ非サレハ許ス可カラス此給與ス可キ資産ノ額ハ全數十分ノ五ニ越ユ可カラス

餘ハ皆ナ官ニ沒入ス可シ

囚人ノ親族若シ必需ノ故有レハ其豫メ官ニ貯フルノ半ヲ以テ之ニ與フルヲ得可シ

#### 第四套 違警獄

第二十八條 凡ソ違警獄ハ一日ヨリ少ナカラス七日ヨリ多カテサル可シ其別法有ルニ屬スル者ハ否ラス

第二十九條 凡ソ違警罪ニ該ル者ハ官府ヨリ定置スル所ノ獄舎ニ繫ク可シ[違警罪ヲ犯ス入獄者ハ力役ニ從事セシム可カラス

#### 第二第三第四套通用律

第三十條 凡ソ罪條未タ分明ナラサルノ前ヨリ獄ニ繫ク者ハ其日ヲ判刑ノ期日ニ算入ス可シ

九

#### 第五套 輕重罪通用律



第三十一條 凡ソ死刑及ヒ懲役ニ坐スル者ハ皆テ終身左ノ六權ヲ剝奪ス可シ

一 内外官吏タルノ權

二 投票ノ權、選舉ノ權、被選ノ權、立君ノ權、ハ則チ國民ノ一般國憲或ハ選舉ノ權ハ單ニ代議士ヲ撰フノ權ヲ云フ

三 賞牌ヲ帶ヒ尊號ヲ稱スルノ權

四 陪審鑑定人牙保即チ證人トナルノ權唯、特ニ裁判所ニ到リ狀ヲ陳スルヲ許ス可キノミ、證人ハ則チ民法上ニ於テ證

五 親族ノ會議員ニ加ハルノ權、後見人タルノ權、後見人トハ二十歳以上ノ財產ヲ管理スル能ハサル者ノ後見人タルヲ云フ、後見監督タルノ權、監財人タルノ權、監財人ハ十五歳以上ニシテ父母ノ許カレタル後見人ノ財務ヲ監スル裁判所ヨリ任スル會議人タルノ權

所ヨリ爲任スル會議人ハ無頼ニシテ漫リニ財產ヲ費ス者ノ爲ニ官ヨリ命シテ家財ヲ代理セシムル者

但シ後見ヲ受ル者若シ其所生ノ子ニシテ親族會議モ之ヲ許ス有レハ尙ホ右ノ人員タルヲ得可シ

六 兵器ヲ持スルノ權及ヒ兵籍ニ加ハルノ權

第三十二條 凡ソ監役及ヒ禁錮ニ坐スル者ハ重罪裁判所ヨリ前條ノ

六禁ヲ全科シ若シハ分科シ得可シ又ハ終身若シハ十年ヨリ二十年マテノ間禁シ得可シ

第三十三條 凡ソ懲治獄ニ坐スル者ニシテ律例中別條有ルニ係ル者

ハ第三十一條ノ六禁ヲ輕重裁判所ヨリ命シ全科シ或ハ分科ス但シ五年ヨリ十年ニ止マル

第三十四條 凡ソ前條諸權利剝奪ノ年限ハ裁判ニ依テ罪ヲ審斷シ其

罪案ヲ記スルノ日ヨリ算ス可シ



右罪人ハ面ノアタリ判決ヲ受ルト受ケサルトヲ論セス罪科判決ノ日ヨリ其民權ヲ剝奪スル者トス

第三十五條 凡ソ罪違警ニ該ル者ハ其滿期解放ノ後モ官ヨリ幾地方ヲ驅リ其人ヲシテ入ルヲ許サ、ルノ權有リトス

期限未タ滿タサルノ前其罪人ヲシテ已レ住セント欲スルノ地所ヲ告ケシメ期滿テ路券ヲ示ス所ノ路程ニ從ヒ其ト居ノ地ニ到ラシム可シ乃チ路程滯留ノ時間モ路券中ニ示ス所ニ從ハシム

右罪人其地ニ到着スル二十四時間内ニ路券中ニ記載セル所ノ官吏ノ前ニ出テシム可シ又右罪人再ヒ居ヲ移サント欲スル時ハ其行發ノ三日前ニ之ヲ右官吏ニ告ケ其官吏ニ出ス所ノ路券ヲ再ヒ請フテ後チ發スルヲ得可シ但シ其路券中ニ右官吏ハ其人轉居ノ由ヲ記載スル者トス

第三十六條 凡ソ重罪ニ坐スル者ハ其罪案ニ從ヒ放免後モ尙ホ「ボリイヌ」兵ノ警察ヲ受ケシム可シ但シ此警察ハ五年ヨリ少ナカラス二十年ヨリ多カラサル可シ

若シ重罪ヲ再犯スル者有レハ終身ノ警察ヲ受ケシム

第三十七條 凡ソ罪懲治獄ニ該ル者ハ法律上ニ於テ定條有ルニ係ル者ニ非サレハ警察ニ付ス可カラス

### 第六套 三罪通用例

第三十八條 凡ソ違警罰金ハ「一」フランクヨリ少ナカラス二十五「二」フランクヨリ多カラサル可シ若シ其別條有ルニ係ル者ハ否ラス

輕重罪罰金ハ二十六「三」フランクヨリ少ナカラス總テ罰金ハ皆ナ官ノ益ニ歸ス可シ

第三十九條 凡ソ罰金ハ同罪衆犯者モ各人ニ科シ衆人相與ミシテ出



スチ評サス

第四十條 凡ソ罰金ヲ命スルハ犯人出庭スレハ審判ノ日ヨリ算シ出庭セサレハ審判狀ヲ送遺スルノ日ヨリ算シ若シ二箇月過キ猶ホ納メサル者ハ入獄ニ處ス但シ重罪ハ獄六箇月輕罪ハ三箇月違警ハ三日タル可シ

二罪ヲ犯ス者ハ其本刑ヲ受ク可キ獄ニ繋ク可シ  
若シ特ニ罰金ニ處ス可キ者ニシテ其出金シ能ハサル者ハ各其犯狀ニ從テ懲治獄若クハ違警獄ニ處ス可シ

第四十一條 右犯罪ヲ以テ獄ニ繋カル、者ハ何ノ景況タルヲ論セス其出金スルヲ待テ之ヲ放免スルヲ得若シ其財産ヲ有スル者ハ獄ヲ以テ金ニ換フルヲ聽ルサス

第四十二條 凡ソ没入ニ處ス可キ物件ハ左ノ如シ

一 犯罪ヲ備フル物品及ヒ犯罪ニ用フル物品ニシテ其犯罪人ノ所有タル時ハ之ヲ没入ス犯罪ヲ備フル物品トハ阿片罂器此等物品ヨリ罪科ヲ生ス可ケレハナリ

二 犯罪ニ依テ得ルノ物品罪ニ用フル物品トハ盜賊ノ所持スル劍刀若クハ偽鑰等ヲ云フナリ

第四十三條 凡ソ没入ハ重罪若クハ輕罪ニ施シ行フト雖モ違警罪ニ向テハ別ニ殊法有ルニ非サレハ施シ行フ可カラス

第三章 輕重罪及ヒ違警罪補

第四十四條 凡ソ法律ニ據テ本刑ヲ科スル者ト雖モ尙ホ追還追償スルヲ免ス勿レ

第四十五條 凡ソ法律中追償ノ金額ヲ載セサル者ハ判官之ヲ決定ス可シ但シ受害人ノ承諾ヲ得ルモ之ヲ他事ニ轉用スルヲ得ス

第四十六條 凡ソ追還追償出費ヲ爲サシムルニハ本人ヲ繋獄スルヲ



得可シ

然レモ判官ニ於テ格別ノ斷決有ルニ非サレハ民事ノ相手人及ヒ民事ニ付テノ擔當人ヲ繫獄スルヲ得ス

第四十七條 凡ソ出費ノ官ニ納ム可キ者ニ代フル繫獄ヲ以テスル時

ハ其日數ヲ判官ヨリ定科ス可シ但シ八日以上十月ニ止マル

若シ罪囚其償ヲ可カラサル確證アル者ハ繫獄七日ニシテ放免ス可

シ其償ヲ可カラサルト否トハ治罪法ニ據テ之ヲ證定ス

第四十八條 凡ソ犯人ノ齡七十歳ニ至ル者ハ繫獄セス

第四十九條 凡ソ犯人財産ヲ以テ罰金追還追償ノミヲ辨スルニ足ラ

サル者ハ其追還追償ヲ先ニセシム

若シ其財産罰金及ヒ費額ノ全數ヲ償フ能ハサル者ハ先ツ費額ノ償

ヲ先ニス

5

第五十條 凡ソ追還追償ス可キ罪ヲ衆人共犯スル者ハ共犯相與ミシ

テ全額ヲ負フ衆人均シテ全額ヲ償フヲ得可ク又一人代テ之ヲ償フ

ヲ得可シ其黨中ヨリ出ヌヲ得セシム

共犯均シク同裁判ヲ受ル者ノ其費額ヲ出スモ亦相與ミスルヲ得セ

シム

然レモ或ハ裁判官右衆犯ノ總人數若クハ其二三名ヲシテ費額ノ償

ヲ免セシムルヲ得但シ之ヲ免スル總人數ニ及ハサル時ハ其主意ヲ

論シ全費額ヲ他ノ各人ニ命シ分償セシム

衆犯ニシテ各箇ノ裁判ヲ受ル者ハ其具狀普通ナルニ非サレハ追還

追償ノ額ヲ互ニ相與ミシ代償スルヲ許サス

第四章 輕罪若クハ重罪ヲ犯サントスル者

第五十一條 凡ソ輕重罪ヲ犯サント決心シ已ニ手ヲ試ムル者ト雖モ



或ハ機ヲ失シ或ハ他人ニ遮キラレ志ヲ果サ、ル者ハ其構意ヲ按シ罰ニ處ス

第五十二條 凡ソ重罪ヲ犯サントシテ其遂ルヲ得サル者ハ第八十條及ヒ八十一條ニ據リ其罪ヲ遂ケ行フ者ニ一等ヲ減ス

第五十三條 凡ソ輕罪ヲ犯サントシタル者ノ罰ハ各其狀ニ從テ定法ヲ設クル者トス

第五章 再犯

第五十四條 何ノ箇條タルヲ論セス已ニ重罪ヲ犯シ又監役ニ該ルノ罪ヲ犯シタル者ハ十年ヨリ十五年マテノ懲役ニ處ス可シ

若シ再犯罪懲役十年ヨリ十五年ニ該ル者ハ十五年ヨリ二十年マテノ懲役ニ處ス可シ

再犯罪懲役十五年ヨリ二十年マテニ該ル者ハ十七年ヨリ少ナカラ

サルノ懲役ニ處ス可シ

第五十五條 凡ソ已ニ重罪ヲ犯シ又五年ヨリ十年マテノ禁錮ニ該ル

ノ罪ヲ犯ス者ハ十年ヨリ十五年マテノ禁錮ニ處ス可シ

若シ再犯罪禁錮十年ヨリ十五年マテニ該ル者ハ非常禁錮ニ處ス

若シ再犯罪非常禁錮ニ該ル者ハ十七年ヨリ少ナカラサルノ禁錮ニ處ス可シ

第五十六條 凡ソ已ニ重罪ヲ犯スノ後ニ尙ホ輕罪ヲ犯ス者ハ輕罪一等ヲ倍科ス

前犯一年以上ノ獄ニ該リ其期終ルノ日若クハ其受刑ノ日ヨリ算シ五年ヲ出スシテ再ヒ輕罪ヲ犯ス者ハ同刑ニ處ス可シ

以上二件ニ在テハ裁判ニ依リ其犯人ヲ五年ヨリ少ナカラス十年ヨリ多カラサル警察ノ下ニ有ラシム可シ



第五十七條 凡ソ已ニ軍律ヲ犯シ又其再犯律輕重罪條ニ據テ論ス可  
キ者ヲ刑スルモ前數條ニ據テ處斷ス可シ

此ノ如キ類ハ再犯加等ニ於テ前犯ヲ其尋常律ノ下等ニ該ル者トス  
可シ該下等トハ譬ヘハ十五年ニ處セラルハ者トスルノ類ナリ

第六章 數罪俱ニ發ス

第五十八條 凡ソ違警罪數箇ヲ犯ス者ハ其各犯罪條ニ循テ罪ヲ科ス  
可シ

第五十九條 凡ソ違警罪一條以上若クハ輕罪一條以上ニ俱ニ發スレ

ハ罰金又ハ懲治獄ヲ其各犯罪條ニ循テ科シ次條ノ定限ヲ越ユ可カ  
ラス

第六十條 凡ソ數輕罪ヲ犯ス者ハ其各犯ニ從テ刑ヲ加フ但シ輕罪律  
中最モ重キ者ヲ倍加スルニ越ルヲ得ス

第六十一條 凡ソ重罪ヲ犯ス者ニシテ輕罪又ハ違警罪一若クハ一以  
上俱ニ發スルハ唯重罪ヲ以テ論シ罪ヲ科ス可シ

第六十二條 凡ソ重罪數犯ノ者ハ其重キニ從テ論ス若シ其罪有期懲  
役有期禁錮若クハ監役ニ該ル者ハ或ハ本刑ニ一等ヲ加ヘ五年ニ至  
ル譬ヘハ本刑十年ヨリ十五年マテノ懲役ニ該ル者

第六十三條 凡ソ罪ノ重キ者ニ從フトハ受刑期ノ永キ者ヲ云フ若シ  
其期等シキ者ハ懲役及ヒ監役ヲ禁錮ヨリ重シトス

第六十四條 凡ソ没入ノ刑ハ輕重罪違警罪共ニ皆ナ其各犯ニ從テ科  
ス

第六十五條 凡ソ一事ヲ犯シ罪名數條ニ涉ル者ハ特ニ其重キ者ニ從  
テ科ス

第七章 衆人共ニ輕重罪ヲ犯ス



第六十六條 共ニ輕重罪ヲ犯スニ自カラ其事ヲ遂ル者若クハ其加力  
スル者

其所ニ會セスト雖モ首トシテ方略ヲ示シ輕重罪ヲ援ケ遂ケシメタ  
ル者

或ハ利ヲ以テ誘キ或ハ約ヲ結ヒ或ハ劫迫シ或ハ威福ヲ擅ニシ或ハ  
奸謀若クハ偽計ヲ以テ輕重罪ヲ行ハシムル者

或ハ衆會公席ニ利害ヲ辯シ或ハ路傍ニ議論ヲ揭示シ或ハ印行書ヲ  
頒布シ忽チ輕重罪ヲ犯サシムル者

以上ハ皆ナ造意者ヲ以テ論シ其本刑ニ處シ又其懲慝輕重罪條ヲ以  
テ論シ假令ヒ事ヲ行ハサルモ尙ホ別ニ懲慝輕重罪律ヲ加フ可シ

第六十七條 輕重罪ヲ行ハシメント要シ其方略ヲ授クル者

輕重罪ヲ犯スカ爲メ用フル兵器等都テ其用ニ充ルノ具ヲ情ヲ知テ

貸シ與フル者

第六十六條第三項ニ掲グル如キ者ニ非スシテ凡ソ情ヲ知リ輕重  
犯罪者ヲ援ケ容易ニ其事ヲ行ハシメ或ハ已ニ行フノ後之ヲ扶クル  
者

以上ハ皆ナ從テ以テ論ス可シ

第六十八條 凡ソ兇徒強盜等國土ノ安寧公衆ノ平和人民ノ營生若ク  
ハ其所有物ノ損害ヲ爲ス者ヲ情ヲ知テ平生止宿セシメ若クハ其聚  
會所ヲ貸シ與ヘ或ハ伏匿セシムル者ハ從テ以テ論ス

第六十九條 凡ソ重罪ニ與ミスル者ハ本律第八十條及ヒ八十一條ニ  
據リ其主謀者ニ一等ヲ減ス

輕罪ニ與ミスル者ハ其主謀ニ科ス可キ刑ノ三分ノ二ヲ科ス可シ

第八章 免罪減刑



四二

第七十條 凡ソ國法ニ循ヒ若クハ長官ノ命ヲ奉シテ事ヲ行フ者ハ皆  
ナ無罪

第七十一條 凡ソ事瘋癲若クハ抵抗スル能ハサル劫迫ノ故ニ已ムヲ  
得ス犯罪ニ至ル者ハ皆ナ無罪

七十二條 凡ソ犯罪者ノ年齢未タ十六歳ニ滿タスシテ其故意ニ出  
テサル者ハ論スル勿レ

但シ此類ノ幼者ハ二十一歳ニ至ルマテ官ニ收管ス可シ

官ニ收管スル者ハ懲戒所若クハ救恤舎ニ入ラシム其間改心ノ徵候  
アル者ハ其父母ニ返ス

七十三條 凡ソ十六歳未滿ノ幼者是非ヲ辨シナカラ重罪ヲ犯ス者  
ハ左ノ如ク刑ニ處ス可シ

其罪若シ死刑無期懲役無期禁錮ニ該ル者ハ十年ヨリ二十年マテノ

禁獄ニ處ス可シ

其罪有期懲役非常禁錮ニ該ル者ハ五年ヨリ十年マテノ禁獄ニ處ス  
可シ

其罪監役若クハ尋常禁錮ニ該ル者ハ一年ヨリ五年マテノ禁獄ニ處  
ス可シ

七十四條 凡ソ十六歳未滿ニシテ是非ヲ辨シナカラ輕罪ヲ犯ス者  
ハ罪其本刑ノ半ヨリ重カラス

七十五條 凡ソ十六歳未滿ノ犯罪人ハ警察ニ處セス三十六条見ヨ且ツ  
第三十一條ニ載ル民權剝奪ニ處セス

五二

七十六條 凡ソ滿十六歳以上ノ啞是非ヲ辨セス輕重罪ヲ犯ス者ハ論  
スル勿レ此類ノ啞ハ國法中ニ載ル舎ニ入レ教育ス但シ五年ヲ過キスニ  
若シ滿十六歳以上ノ啞是非ヲ辨シナカラ輕重罪ヲ犯ス者ハ本律中



第七十三條、七十四條、七十五條ニ據テ罪ヲ科ス

第七十七條 凡ソ重罪ヲ犯ス者未滿十八歳ナレハ死刑ニ處セス無期ノ懲役ニ處ス可シ

第七十八條 凡ソ免罪減刑ハ律例本條ニ掲クルノ外ハ施スヲ得ス

第九章 情狀斟酌ス可キ者

第七十九條 凡ソ情狀斟酌ス可キ者ハ下條ニ照準シ刑ヲ減ス可シ

第八十條 凡ソ罪死刑ニ該ル者ハ減シテ無期懲役若クハ十五年ヨリ

二十年マテノ懲役ニ處ス可シ

罪無期懲役ニ該ル者ハ減シテ十五年ヨリ二十年マテノ懲役若クハ

十年乃至十五年ノ懲役ヲ科ス

若シ罪十年ヨリ十五年マテノ懲役ニ該ル者ハ減シテ監役若クハ三

年以上ノ獄ニ處ス可シ

若シ罪監役ニ該ル者ハ減シテ三箇月ヨリ少ナカラサル獄ニ處ス可シ

第八十一條 凡ソ罪無期禁錮ニ該ル者ハ非常禁錮若クハ十年ヨリ十

五年マテノ禁錮ニ處ス可シ

若シ罪非常禁錮ニ該ル者ハ十年ヨリ十五年マテノ禁錮若クハ五年

ヨリ十年マテノ禁錮ニ處ス

若シ罪十年ヨリ十五年マテノ禁錮ニ該ル者ハ五年ヨリ十年マテノ

禁錮若クハ二年以上ノ獄ニ處ス可シ

若シ罪五年ヨリ十年マテノ禁錮ニ該ル者ハ二年以上ノ獄ニ處ス可

シ

第八十二條 罪本刑ノ重キニ該ル者ハ同刑ノ輕キニ論シ若クハ一等

ヲ減ス重トハ譬ヘハ懲役五年ノ刑ニ在テハ其  
二十年ヲ云フ至輕トハ其十五年ヲ云フ

第八十三條 凡ソ重罪罰金ハ減スト雖モ二十六フランクニ下ル可カ



ラス

第八十四條 凡ソ重罪ノ減シテ禁獄ニ該ル者モ二十六フランクヨリ一千フランクニ至ルマテノ罰金ヲ命ス可シ

且ツ是等ノ犯罪人ハ第三十一條ニ掲載セル民權全數若クハ數條ヲ剝奪ス可シ但シ其期限ハ五年ヨリ少ナカラス十年ヨリ多カラサル可シ

警察ヲ受ケシム可キ期限モ亦五年ニ始リ十年ニ止マル

第八十五條 凡ソ獄若クハ罰金ニ該ル者モ其情狀減ス可キ者ハ減スト雖モ其違警罪以下ニ非サルヨリハ獄ハ八日以下ニ減ス可カラス罰金ハ二十六フランク以下ニ減ス可カラス右兩刑ヲ區別シテ科スルハ裁判官ノ任トス若シ罪唯獄ノミニ該ル者ハ裁判官之ニ換フルニ罰金ヲ以テスルヲアリ而シテ此罰金ハ五百フランクニ越ユ可カ

ラス

若シ罪第三十一條ニ掲載セル民權剝奪及ヒ警察ニ該ル者ニ其一年間ノ剝奪及ヒ五年間ノ剝奪ヲ命スルハ裁判官ニ任ス

第十章 罪限

第八十六條 凡ソ輕重罪ヲ犯シ已ニ判決ヲ經ル者モ其罪人死スレハ刑終ル

第八十七條 凡ソ堪ヘ難キノ罪ニ坐スル者モ國王赦宥ノ特命ニ依リ放免ヲ得可シ民權一難キハ其罪狀等ニ因テ一部ヲ禁スルヲ云フ

第八十八條 凡ソ死刑終身懲役終身禁錮ニ論決シ若クハ既ニ判決スル者モ國王ノ特命ニ據リ赦宥シ勅書中別ニ書スル所無キ者ハ皆テ警察ヲ受ケシムル二十年トス

第八十九條 凡ソ等ヲ減シ第二十一條ニ掲載セル民權剝奪ヲ兼スル



罪ニ坐スル者ハ刑期中此民權剝奪ニ處ス可シ

第九十條 凡ソ民權剝奪ニ坐スル者或ハ赦ニ逢ヒ或ハ減等ニ因テ民

權剝奪ヲ兼ササル他ノ刑ニ處シラル、者ハ民權ヲ復ス可シ

第九十一條 凡ソ重罪刑ハ其判決ノ日ヨリ算シ滿二十年ニシテ措刑ス

措刑トハ豫メ法律ニ定ムル所ノ期限ヲ消去スルヲ云フ期限一タヒ消去スレハ犯人ノ罪ハ除スルナリ

第九十二條 凡ソ輕罪犯ハ其判決ノ日ヨリ算シ五年ニ滿ル者ハ皆ナ

措刑ス

若シ本刑三年ヲ越ル者ハ十年ニシテ廢徹ス

第九十三條 凡ソ違警罪ハ判決即日ヨリ一年ニシテ廢徹ス

第九十四條 凡ソ警察罰金沒入ニ處スル者ハ其罪輕重違警ノ別ニ從

ヒ前條ノ法ニ據リ廢徹ス

第九十五條 凡ソ刑期中ニ逃亡スル者ハ措刑ノ定期ヲ更ニ其逃亡ノ

即日ヨリ算ス

若シ有期ノ重罪ニ坐シ受刑五年以上及ヒ逃亡スル者ハ其五年ヲ除キ餘ノ年月ヲ措刑定期ニ算入ス可ク若シ輕罪ニシテ受刑二年以上ニ及ヒ逃亡スル者ハ其二年ヲ除キ餘ノ年月ヲ措刑定期ニ算入ス可シ

第九十六條 凡ソ措刑定期前ニ逃亡シ捕縛スル者ノ其捕縛前ノ年月ヲ措刑ノ期ニ合算スルヲ得ス

第九十七條 凡ソ本刑措止ヲ得ル者ハ其措刑ノ即日ヨリ警察ノ期ヲ算ス

第九十八條 凡ソ死刑無期懲役無期禁錮ニ論決スル者ハ措刑ヲ得ルト雖モ尙ホ警察二年ニ處ス可シ

第九十九條 凡ソ民事犯罪ノ輕重違警律ニ據リ判決スル者ハ民法ニ



據リ斷決ノ即日ヨリ算シ措刑ヲ許ス  
若シ審判ニ出會セサル者ハ其判決ノ即日ヨリ日數ヲ算ス可シ

總規則

第百條 凡ソ國法及ヒ諸規則中ニ犯罪ノ所由ヲ載スル者ト雖モ其擬  
斷ス可キ正條無キ者ハ皆ナ本律第一卷ノ法ニ照準シテ論ス可シ但  
シ其第七十二條第二段第三段第七十六條第二段及ヒ第八十五條ハ  
此類ノ罪ニ用フルヲ得ス  
然レモ若シ本律ヲ用フルカ爲メ罰金類官ニ納ム可キ金額ヲ減スル  
者ハ此本律ヲ用フルヲ得ス

ろ

第二卷 各種犯罪

第一篇 國家安寧ヲ害スル輕重罪

第一章 國王、王族及ヒ建國ノ犯及ヒ其結黨

第百一條 凡ソ國王ノ身體生命ニ對シ罪ヲ犯ス者ハ死刑

若シ其身ノ自由ヲ妨ケス(王ヲ獄ニ下ス類)又血ヲ流ス如キ無ク又傷  
ヲ被ラシムル如キ無ク又疾病ヲ起サシムル如キ無ク唯其身ニ對シ  
罪ヲ犯ス者ハ終身懲役

第百二條 凡ソ太子ノ生命ニ對シ罪ヲ犯ス者ハ死刑

若シ其身體ニ對シ罪ヲ犯ス者ハ終身懲役  
若シ其身ノ自由ヲ妨ケル無ク又血ヲ流ス無ク又傷ヲ被ラシムル無  
ク又疾病ヲ起サシムル無キノ者ハ十五年ヨリ二十年マテノ懲役ニ  
處ス可シ



第三百三條 凡ソ妃及ヒ國王正統ノ親及ヒ其外戚及ヒ其兄弟ノ白國人ナル者及ヒ攝政及ヒ建國法ニ掲載セル王權ヲ行フ宰相等ノ生命ニ對シ罪ヲ犯ス者ハ必ス其成否ヲ論セス罪ヲ科ス

若シ其身體ニ對シ罪ヲ犯ス者ハ十年ヨリ十五年マテノ懲役ニ處ス可ク若シ其身ノ自由ヲ妨ケス血ヲ流ス無ク又傷ヲ被ラシムル無ク又疾病ヲ起サシムル無キ者ハ監役ニ處ス可シ

第三百四條 凡ソ建國法ヲ變シ或ハ王家繼統法ヲ革ム或ハ國民ヲ煽惑シ兵ヲ擧ケ王位若クハ兩議院ヲ顛覆スル等ノ犯罪ハ皆テ終身禁錮ニ處ス可シ

第三百五條 凡ソ罪ヲ犯サントシ其事已ニ刑律ヲ以テ論ス可キ者ハ皆テ之ヲ其犯罪トス

第三百六條 凡ソ國王ノ身體及ヒ生命ヲ害セントシ黨ヲ結ヒ已ニ其施行ノ一策ヲ行フ者ハ十五年ヨリ二十年マテノ懲役否ラサル者ハ十年ヨリ十五年マテノ懲役ニ處ス可シ

第三百七條 凡ソ太子ノ身體及ヒ生命ヲ害セントシ黨ヲ結ヒ已ニ施行ノ一策ヲ行フ者ハ十年ヨリ十五年マテノ懲役否ラサル者ハ監役ニ處ス可シ

第三百八條 凡ソ第三百三條ニ掲載セル王族及ヒ攝政或ハ宰相等ノ身體生命ヲ害セントシ黨ヲ結フ者ハ監役ニ處ス可シ

第三百九條 凡ソ第三百四條ノ犯テ目的トシ黨ヲ結ヒ已ニ施行ノ一策ヲ行フ者ハ十年ヨリ十五年マテノ禁錮否ラサル者モ五年ヨリ十年マテノ禁錮ニ處ス可シ

第一百十條 凡ソ結黨ト稱スル者ハ衆人相謀リ犯罪ノ策已ニ決スルヲ云フ



第百十一條 凡ソ國王、太子或ハ第百三條ニ掲載セル王族及ヒ攝政或ハ宰相等ノ身體生命ヲ害セント要シ其結黨セントスルニ應スル者無キハ一年ヨリ五年マテノ獄ニ處ス可シ

以上ノ犯罪ハ本刑ノ外五年ヨリ十年マテノ警察ヲ科シ且ツ第三十三條ノ民權剝奪ニ處ス可シ

第百十二條 凡ソ國王、太子及ヒ第百三條ニ掲載セル王族、攝政或ハ宰相ノ身體生命ヲ害セントシ謀已ニ成リ結黨セス唯一人ニシテ已ニ施行ノ一策ヲ施ス者ハ監役ニ處ス可シ

第二章 外患ヲ起ス輕重罪

第百十三條 凡ソ兵器ヲ持シ白國ニ敵スル者ハ非常禁錮トス

第百十四條 凡ソ外國政府若シハ其官吏ト交通シ兵ヲ擧ゲテ白國ニ寇セシメント要シ或ハ其方畧ヲ得セシムル者ハ十年ヨリ十五年マ

テノ禁錮トス之カ爲メ國家ノ交際已ニ破ル、者ハ終身禁錮

第百十五條 凡ソ國敵ニ國內侵入ノ方畧ヲ得セシムル者

白國所轄ノ都府、城堡、陣營、灣港、倉庫、製作所、(武器)船艦等ヲ國敵ニ與フル者

兵卒、人民、貨幣、食料、武器、彈藥等ヲ國敵ニ給與スル者

白國海陸軍將校、士卒、雇夫及ヒ國人忠誠ノ心ヲ盡惑シ國敵ニ侵入進撃ノ便利ヲ得セシムル者

以上ハ皆ナ終身禁錮

以上ノ犯ニ於テ已ニ試犯ノ罰ス可キ者ハ皆ナ本罪ヲ科ス

以上四犯ノ一ヲ犯サントスル結黨其謀ヲ遂ケントシ已ニ手ヲ試ムル者ハ十年ヨリ十五年マテノ禁錮否サル者モ同罪五年ヨリ十年マテトス



第一百十六條 凡ソ白國外同盟國ト共ニ他ノ外寇ヲ防禦スルニ當リ其

同盟國ニ對シ前條ノ法ヲ犯ス者ハ各條ニ據テ論シ其本刑ニ處ス

第一百十七條 凡ソ第一百十五條ニ揭載セル犯罪ニ非スト雖モ敵國ノ臣

民ト互ニ往復シ白國ノ不利ヲ謀リ機密ヲ洩シ白國若クハ同盟國ノ

兵務ヲ損スル者ハ五年ヨリ十年マテノ禁錮ニ處ス可シ

第一百十八條 凡ソ白國人有司ノ職ニ居リ或ハ其地位ニ居テ商議出兵

等ノ機密ヲ參知シ野心ヲ狹ミ之ヲ敵國若クハ其國ノ官吏ニ漏洩ス

ル者ハ終身禁錮

若シ野心ヲ狹ミ國ノ機密ヲ寇敵ニ非サル外國若クハ其官吏ニ漏洩

スル者ハ十年ヨリ十五年マテノ禁錮ニ處ス可シ

第一百十九條 凡ソ城堡、製作所、灣港等ノ膏圖ヲ監主スル官吏野心ヲ狹

ミ之ヲ外敵若クハ其官吏ニ通スル者ハ終身禁錮

若シ野心ニ依リ其膏圖ヲ寇敵ニ非サル外國或ハ其官吏ニ通スル者

ハ五年ヨリ十年マテノ禁錮ニ處ス可シ

第一百二十條 凡ソ膏圖監主ニ非スシテ賄賂、詐偽、強暴、恐嚇等ニ依リ之

ヲ得野心ヲ狹ミ敵國若クハ敵國ニ非サル外國ニ贈ル者罪監主ニ同

シ即チ前數條ノ區別ニ從ヒ本刑ヲ科ス

賄賂、詐偽、強暴、恐嚇ヲ用ヒス以上ノ膏圖ヲ得之ヲ敵國政府若クハ其

官吏ニ與フル者ハ五年ヨリ十年マテノ禁錮其敵國ニ非サル政府若

クハ其官吏ニ與フル者ハ三月ヨリ二年マテノ獄ニ處ス可シ

第一百二十一條 凡ソ情ヲ知テ敵國ノ間諜及ヒ兵士ヲ陰匿シ或ハ人ヲ

シテ陰匿セシムル者ハ十年ヨリ十五年マテノ禁錮ニ處ス可シ

第一百二十二條 敵ニ便利ヲ得セシメント要シ物品ヲ破壞シ若クハ放

火スル者ハ第九篇第三章ニ據テ論シ本刑ニ折衷シ左ノ刑ニ處ス可シ



獄ニ該ル者ハ

監役

監役ニ該ル者ハ

懲役十年ヨリ十五年

懲役十年ヨリ十五年ニ該ル者ハ

懲役十五年ヨリ二十年

懲役十五年ヨリ二十年ニ該ル者ハ 終身懲役

第二百二十三條 凡ソ政府ノ許可ヲ用ヒス妄リニ事ヲ行ヒ白國ト外國

トノ間ニ隙ヲ生セシメントスル者ハ五年ヨリ十年マテノ禁錮若シ

已ニ隙ヲ生スル者ハ十年ヨリ十五年マテノ禁錮ニ處ス可シ

第三章 内國ノ安寧ヲ害スル重罪

第二百二十四條 凡ソ國民ヲシテ互ニ恨ヲ懷キ兵ヲ携ヘ戦争セシメ安

寧ヲ害スル者ハ非常禁錮ニ處ス可シ

若シ以上ノ罪ヲ犯サントシテ結黨シ已ニ施行ノ策ヲ行フ者ハ十年

ヨリ十五年マテノ禁錮否ラサル者ハ同罪五年ヨリ十年マテトス

第二百二十五條 凡ソ村邑ヲ掠略シ亂殺暴行スルヲ事トスル者ハ十五

年ヨリ二十年マテノ懲役ニ處ス可シ

若シ以上ノ罪ヲ犯サントシ黨ヲ結ヒ已ニ施行ノ策ヲ行フ者ハ十年

ヨリ十五年マテノ懲役否ラサル者ハ監役

第二百二十六條 凡ソ長官ノ命若シハ政府ノ允許ニ據ラス戎裝セル軍

民ヲ聚メ或ハ聚メシメ兵士ヲ募リ或ハ募ラシメ或ハ之ニ戎器彈藥

ヲ給授スル者ハ五年ヨリ十年マテノ禁錮ニ處ス可シ

第二百二十七條 凡ソ左ニ掲載セル犯罪ハ皆十五年ヨリ十年マテノ禁

錮ニ處ス可シ

權利ヲ有スル無ク若クハ理ノ辯說ス可キ無クシテ大隊、小隊、軍艦、城

堡陣營、灣港、都府等ノ號令ヲ擅ニスル者

官命ニ抗シ兵隊ノ號令官ヲ退カサル者



兵隊解散ノ命ニ違ヒ之ヲ解散セサル者

第二百二十八條 凡ソ官ノ金錢領地財寶都府城堡陣營倉庫武庫海港船

艦等ヲ掠奪シ或ハ此等ノ反賊ヲ制壓スル官軍ヲ襲撃シ抗拒セント

要シ兇徒ノ號令ヲ司ル者及ヒ其徒中ニ職ヲ行フ者ハ皆ナ非常禁錮

ニ處ス可シ

第二百二十九條 凡ソ前條ニ掲載セル兇徒公財ヲ掠奪シ或ハ鎮撫兵ニ

抗シ其隊ヲ號令スル者及ヒ隊中ニ職ヲ行フ者ハ皆ナ十五年ヨリ二

十年マテノ懲役ニ處ス可シ

第三百十條 凡ソ結黨ノ謀主及ヒ兵ヲ募リ又ハ募ラシメ隊ヲ編シ又

ハ編セシムル者ハ皆ナ前二條ニ據テ論シ其次第ニ應シ罪ヲ科ス

第三百十一條 兇徒相聚リ第三百一條百二條百三條百四條ノ犯ヲ爲ス

者ヲ聚合ノ場ニ捕縛スレハ階級ヲ論セス本條ニ據テ論シ罪ヲ科

ス

假令ヒ其場所ニ捕縛スルヲ得サルモ全隊ヲ指揮シ若クハ一分隊ヲ

號令シタル者ハ皆ナ同科ニ論ス可シ

第三百十二條 凡ソ第三百一條百二條百三條百四條ノ犯ヲ目的トセサ

ル兇徒事ニ臨テ捕ヘラレ隊中ニ指揮及ヒ其他ノ職ヲ行ハサル者ハ

其首謀ニ一等ヲ減ス

第三百十三條 凡ソ第三百一條百二條百三條及百二十八條ノ犯ヲ目的

トスル兇徒ヲ情ヲ知テ其全隊若クハ分隊ヲ宿セシメ或ハ之ヲ陰匿

シ或ハ之ニ會議ノ地ヲ給スル者ハ監役若シ兇徒ノ目的第三百四條及

百二十七條ノ犯ニ屬スル者ハ五年ヨリ十年マテノ禁錮ニ處ス可シ

第三百十四條 凡ソ前條ニ掲載セル兇徒ニ與ミスルト雖モ其隊中ニ

指揮ヲ爲サス職ヲモ執ラス文官又ハ武官ノ鎮撫第一令ニ應スルカ



或ハ其後ニ遁逃シ兇徒會合ノ地ニ非スシテ捕ハレ兇器ヲ持セズ抗拒セサル者ハ論スル勿レ

但シ別ニ各其躬親カラ犯ス所アル者ハ各其本條ニ據テ論シ罪ヲ科ス

第三百三十五條 凡ソ兇器ト稱スル者ハ器械庖丁類總テ殺傷衝毆ニ便スル者ヲ云フ未タ之ヲ用ヒサルモ其場ニ臨ミ之ヲ所持スル者ハ皆ナ兇器ヲ持ツ者トス

本篇通用法

第三百三十六條 凡ソ本篇ニ掲載セル結黨及ヒ第一百十一條ニ掲載セル犯ニ於テ未タ犯サ、ル前及ヒ官ノ搜索ヲ爲サ、ル前ニ自首シ其陰謀或ハ其犯罪及ヒ其首謀及ヒ附從ヲ訴ル者ハ論スル勿レ

第二篇 建國法ニ定ムル國民權利ヲ害スル輕重罪

第一章 公權ヲ妨クル輕罪

第三百三十七條 凡ソ群聚強暴脅迫ヲ以テ國人ノ政權ヲ妨クル者ハ十

五日ヨリ一年マテノ獄ニ處シ二十六「フランク」ヨリ一千「フランク」マテノ罰金ヲ命ス可シ

第三百三十八條 凡ソ議員撰舉ノ圖數計算ニ任スル者或ハ圖表ニ他ノ姓名ヲ加ヘ若クハ除キ或ハ他ノ姓名ヲ讀ミ奸曲ヲ爲ス者等ハ三月ヨリ二年マテノ獄ニ處シ且ツ五十「フランク」ヨリ二千「フランク」マテノ罰金ヲ命ス可シ

第三百三十九條 凡ソ議員撰舉ノ時ニ當リ姦計若クハ強暴ニ因テ投票セシメ或ハ他ノ姓名ニ變換スル者

撰舉日投票ノ席ニ於テ撰舉人ノ知ル無キヲ謀リ圖表ニ他ノ人名ヲ書スル者



撰舉人ノ不參ヲ窺ヒ代テ投票スル者等ハ皆十一月ヨリ一年マテノ獄ニ處シ且ツ二十六フランクヨリ一千フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ

第四百十條 凡ソ議員撰舉ニ於テ投票ヲ賣買スル者ハ五十フランクヨリ五百フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ

第四百十一條 凡ソ第三百三十八條及百三十九條ノ法ヲ犯ス者ハ本刑ノ他尙ホ撰舉ノ權ヲ剝奪スル五年ヨリ十年マテタル可シ

第二章 信奉ヲ害スル輕罪

第四百十二條 凡ソ強暴脅迫ニ因テ一人若クハ衆人ニ宗教ノ信奉ヲ妨ケ其敬祭ヲ行フヲ害シ之カ爲メニ安息ヲ得セシメス數、製作所或ハ鋪店ヲ開閉セシメ其營業所ノ職業ニ舉措ノ度ヲ誤ラシムル者ハ八日ヨリ二月マテノ獄ニ處シ且ツ二十六フランクヨリ二百フラン

クマテノ罰金ヲ命ス可シ

第四百十三條 凡ソ宗教祭事説教等ノ場所若クハ常ニ祭典ヲ行フノ場所ニ於テ混雜ヲ醸シ宗事ヲ妨ケ或ハ止トメ或ハ延滞セシムル者ハ八日ヨリ三月マテノ獄ニ處シ且ツ二十六フランクヨリ五百フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ

第四百十四條 凡ソ罵詈暴動ノ如キ或ハ言或ハ行ヲ以テ常ニ宗教ノ儀式ヲ行フ場所若クハ寺宇等ヲ凌辱スル者ハ十五日ヨリ六月マテノ獄ニ處シ且ツ二十五フランクヨリ五百フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ

第四百十五條 凡ソ言或ハ行或ハ舉動或ハ恐喝シ宗事ヲ行フノ際僧徒ヲ凌辱スル者モ同罪

其僧徒ヲ毆ツ者ハ二月ヨリ二年マテノ獄ニ處シ且ツ五十フランク



ヨリ五百フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ

第四百十六條 凡ソ僧徒ヲ毆テ流血、傷痕、疾病ノ原由ヲ醸ス者ハ六月ヨリ五年マテノ獄ニ處シ且ツ百フランクヨリ一千フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ

第三章 諸官吏憲法ニ背キ人ノ權理ヲ害ス

第四百十七條 凡ソ内外文武諸官吏法ニ背キ擅ニ人ヲ捕縛シ或ハ縛セシメ繫獄シ成ハ繫獄セシムル者ハ三月ヨリ二年マテノ獄ニ處ス可シ

若シ其不正ノ繫獄ヲ行ヒ十日ヲ過クル者ハ六月ヨリ三年マテノ獄ニ處ス可シ

若シ其繫獄ヲ行フ一月ヲ過クル者ハ一年ヨリ五年マテノ獄ニ處ス可シ

は

此等ノ犯罪人ハ本刑ノ外五百フランクヨリ一千フランクマテノ罰金ヲ科シ尙ホ第三十一條第一第二第三ノ權剝奪ニ處ス

第四百十八條 凡ソ行政、司法、警保、兵部諸官吏及ヒ諸法ニ戻リ允許無ク家主ノ許可ヲ得ス人家ニ入ル者ハ八日ヨリ六月マテノ獄ニ處シ且ツ二百フランクヨリ二百フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ

第四百十九條 凡ソ内外及ヒ郵便、電信掛リ諸官吏書翰、電信報ヲ猥リニ開封棄毀シ若クハ其開封棄毀ノ便ヲ爲ス者ハ十五日ヨリ二月マテノ獄ニ處シ且ツ二百フランクヨリ五百フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ

九四 第四百五十條 凡ソ電信ヲ管スル者之ヲ外ニ公布シ或ハ其書中ニ録スル所ヲ他ニ漏洩スル者ハ十五日ヨリ六月マテノ獄ニ處シ且ツ二百フランクヨリ五百フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ但シ裁判所ノ



招呼ニ應ジ證人ト爲リ或ハ國法ニ循テ公知セシムル者ハ坐セズ  
第百五十一條 凡ソ擅恣ノ所行ヲ以テ建國法ニ定ムル人民ノ自由ト  
權利トヲ害シ或ハ害ヒシムル内外警保官吏士卒ハ十五日ヨリ一年  
マテノ獄ニ處ス可シ

第百五十二條 凡ソ此等ノ犯罪人其關係長官ノ命ニ依テ行ヒシ由ヲ  
證シ且ツ官等ヲ論スルニ其命ニ從ハサルヲ得サル者ハ其命令スル  
者ノミヲ罪シ行フ者ハ罪セズ

第百五十三條 凡ソ第百四十八條及ヒ百五十一條ニ掲載スル所行ヲ  
允許シ若シハ命令スル内外官吏及ヒ警保士官其欺カル、由ヲ陳告  
スル時若シ事及フ可ケレハ勉メテ命令允許ヲ取消シ本犯ヲ告訴セ  
シム否ラサル者ハ法ニ據テ罪ヲ科ス

第百五十四條 凡ソ第百四十八條及ヒ百五十一條ノ允許、命令ノ印章  
贋造ニ出ル者贋造人及ヒ惡心ヲ以テ僞印ヲ用フル者ハ共ニ十年ヨ  
リ十五年マテノ懲役ニ處ス可シ  
第百五十五條 凡ソ行政警保或ハ司法警保ニ任スル官吏該官ニ在リ  
ナカラ實ヲ知テ冤囚ヲ放還スルヲ怠リ或ハ之ヲ拒ム者ハ一月ヨリ  
一年マテノ獄ニ處ス可シ

第百五十六條 凡ソ行政警保或ハ司法警保ニ任スル官吏該官ニ罪ス  
ト雖モ實ヲ知テ冤囚ヲ其該官ニ告グルヲ怠リ或ハ之ヲ拒ム者ハ八  
日ヨリ六月マテノ獄ニ處ス可シ

第百五十七條 凡ソ各種獄舎ノ監主、獄卒、門衛、定法ノ繫獄狀若シハ罪  
案書無キ者ヲ受領スル者  
檢事若クハ判官命ヲ證セス妄リニ警保士官若クハ其遣差人ニ獄囚  
ヲ示スヲ肯セサル者



録囚簿ヲ警保士官ニ示スヲ肯セサル者  
以上ハ皆ナ十五日ヨリ二年マテノ獄ニ處シ二十六フランクヨリ二  
百フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ

第二百五十八條 凡ソ諸裁判官、諸監事局官吏、司法警察官及ヒ警保諸官  
允許無クシテ宰相、兩院議士ヲ裁判シ或ハ裁判書ニ署名シ又ハ宰相  
及ヒ兩院議士ヲ逮捕シ若クハ告訴ノ命ヲ下シ或ハ其命令書ニ署名  
シ又ハ宰相及ヒ兩院議士ヲ捕縛スル命ヲ下シ若クハ其命令ニ署名  
スル者ハ二百フランクヨリ二千フランクマテノ罰金ヲ命シ且ツ公  
務ヲ充ス可キ權理ヲ奪フコトアリ但シ臨時犯罪有ルニ於テハ兩院議  
士ヲ捕フルヲ許ス

第二百五十九條 凡ソ監事局官吏、裁判官及ヒ警保諸定則ノ場所外ニ繫  
獄スル者ハ罪前條ニ同シ

第三篇 偽造律

第一章 貨幣贗造

第一百六十條 凡ソ白國ノ通用金銀貨ヲ贗造スル者ハ十年ヨリ十五年  
マテノ懲役ニ處ス可シ

第一百六十一條 凡ソ白國ノ通用金銀貨ヲ變質スル者ハ監役

第一百六十二條 凡ソ金銀ニ非サル白國通用貨ヲ贗造スル者ハ一年ヨ  
リ三年マテノ獄ニ處ス可シ

此等ノ犯罪ハ皆ナ第三十三條ノ奪權ヲ命シ且ツ五年ヨリ十年マテ  
ノ警察ニ處スルコトアリ

若シ其贗造ヲ果サ、ル者ハ三月ヨリ二年マテノ獄ニ處ス可シ

第一百六十三條 凡ソ金銀ニ非サル貨幣ヲ變質スル者ハ三月ヨリ一年  
マテノ獄ニ處ス可シ



四五

第六十四條 凡ソ白國通用相場無キ金銀貨ヲ偽造スル者ハ監役

第六十五條 凡ソ前條ノ貨幣ヲ變質スル者ハ一年ヨリ五年マテノ

獄ニ處ス可シ

但シ第三十三條ノ奪權ヲ命シ且ツ五年ヨリ十年マテノ警察ニ處スルコトアリ

第六十六條 凡ソ白國通用相場無キ金銀ニ非サル貨幣ヲ偽造スル

者ハ六月ヨリ二年マテノ獄ニ處ス可シ

若シ其果サ、ル者ハ一月ヨリ一年マテノ獄ニ處ス可シ

第六十七條 凡ソ前條ノ貨幣ヲ變質スル者ハ二月ヨリ六月マテノ

獄ニ處ス可シ

第六十八條 凡ソ贋造貨幣若シハ變質貨幣ノ通用ヲ共ニシ或ハ共ニセントスル者又贋造貨幣ヲ國內ニ輸入シ或ハ輸入セントスル者

ハ前數條ノ區別ニ循ヒ首從ヲ別チ罪ニ處ス可シ

第六十九條 凡ソ贋貨變質貨ヲ流通セシムル者ノ從ニ非スト雖モ

情ヲ知テ之ヲ取リ之ヲ用フル者及ヒ用ヒントスル者ハ一月ヨリ三

年マテノ獄ニ處ス可シ

第七十條 凡ソ贋貨變質貨タルヲ知ラスシテ之ヲ受取り以後自カ

ラ之ヲ鑑定シ或ハ鑑定セシメ正貨ナラサルヲ知リ之ヲ用フル者ハ

二十六フランシヨリ一千フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ

別殊ノ條款

第七十一條 凡ソ貨幣法施行ノ爲メ金銀貨ノ位量ヲ検査スルニ當

リ其見本ノ選ミ方ニ詐偽ヲ行フ者ハ十五年ヨリ二十年マテノ懲役

ニ處ス可シ

五五

第七十二條 凡ソ金銀ニ非サル貨幣検査ニ於テ前條ノ罪ヲ犯ス者



ハ 監役

第二章

國債證券、券書、借財證券、利符、銀行紙券、贗造及ヒ變造

第七十三條

凡ソ大藏省ノ公債證券及ヒ其公債證券ノ利符リキソノキツチヲ持チ

行ケハ利金銀行紙券バンクチ行ケハ何時ニテモ正金ト引替ユルナリ等官

ヨリ允許セル者ヲ偽造若クハ變造スル者ハ十五年ヨリ二十年マテ

ノ懲役ニ處ス可シ

第七十四條

凡ソ外國債ノ證券現金ト引替及ヒ其利符或ハ外國銀

行證券等ヲ偽造若クハ變造スル者ハ十年ヨリ十五年マテノ懲役ニ

處ス可シ

第七十五條

凡ソ縣邑及ヒ諸局ヨリ國法ニ循ヒ出ス所ノ借財證券若クハ

書及ヒ會社若クハ一名ヨリ國法ニ據テ出ス所ノ借財證券若クハ

其各種證券ノ利符及ヒ其各號ヲ以テ分派シタル證券等ヲ偽造或ハ

變造スル者ハ其白國ニ於テ流通スルハ十年ヨリ十五年マテノ懲役

ニ處シ其外國ニ於テ流通スル者ハ監役ニ處ス可シ

第七十六條

凡ソ以上借財證券、券書、利符等ノ偽造物ヲ共ニ流通シ

或ハ流通セントシ若クハ白國ニ輸入セントシ或ハ輸入スル者ハ前

數條ニ據テ論シ首從ヲ分チ各其罪ヲ科ス

第七十七條

以上各種證券ノ偽造タルヲ知テ之ヲ取リ用ヒ或ハ用

ヒントスル者ハ一年ヨリ五年マテノ獄ニ處ス可シ

第七十八條

凡ソ以上偽造證券タルヲ知ラスシテ取リ再後之ヲ鑑

定シ或ハ鑑定セシメ其真物ナラサルヲ覺リ之ヲ用フル者ハ一月ヨ

リ一年マテノ獄ニ處シ五十フランクヨリ一千フランクマテノ罰金

ヲ命ス可ク或ハ此一刑ニ處ス可シ

第三章

印章、證印、極印、符號等偽造及ヒ變造



第一百七十九條 凡ソ國璽ヲ偽造シ若クハ偽璽ヲ用フル者ハ十年ヨリ十五年マテノ懲役ニ處ス可シ

第一百八十條 凡ソ國璽又ハ金銀貨ノ極印ボタンリンヲ偽造若クハ變造スル者

以上偽造或ハ變造ノ國璽或ハ極印ヲ用フル者

造幣ニ用フル極印印記ノ類ヲ偽造若クハ變造スル者

官許ヲ得タル借財證券アシシヨク券書以上二種共ニ會社ヲ結ヒ出銀シ業ヲ起

スニ當リ社ヨリ銀主ニ與フル證券ナリ蓋シ二種小差アリ此ニ贅セ

ス銀行紙券利符各號ヲ以テ分派シタル證券印紙等ヲ製造スルニ用

フル印記極印模形類ヲ變造若クハ偽造スル者

以上皆ナ監役ニ處ス可シ

第一百八十一條 凡ソ偽造若クハ變造ノ極印アル證紙及ヒ金銀貨物類

ヲ其偽タルヲ知リナカラ店ニ陳列シ賣ル者ハ監役ニ處ス可シ

第一百八十二條 凡ソ極印局ニ於テ打チタル印ヲ他ノ物品ニ用フル者

或ハ其鑿記器ヲ偽造スルニ非スシテ唯證印ヲ模倣偽記スル者ハ六

月ヨリ五年マテノ獄ニ處ス可シ

第一百八十三條 凡ソ偽印若クハ變造印アル證紙ヲ其眞ナラサルヲ知

テ取り用フル者ハ八日ヨリ六月マテノ獄ニ處ス可シ

第一百八十四條 凡ソ人員或ハ物品ヲ運送スル爲メノ符契ヲ偽造スル

者及ヒ之ヲ用フル者諸官司會社銀行及ヒ常人ノ印章印記ヲ偽造ス

ル者及ヒ偽印ヲ用フル者等ハ皆ナ三月ヨリ三年マテノ獄ニ處シ且

ツ第三十三條ノ奪權ニ處ス可シ

若シ其果サル者ハ一月ヨリ一年マテノ獄ニ處ス可シ

第一百八十五條 凡ソ第一百七十九條及ヒ百八十條ニ掲載セル者ノ用ニ

充ツ可キ正印ヲ不法ニ得テ公私ノ害ヲ生スルニ用フル者ハ二月ヨ



リ三年マテノ獄ニ處ス可シ

若シ其果サ、ル者モ同罪十五日ヨリ一年マテニ處ス可シ

第百八十六條 凡ソ外國ノ印章、證印、極印、記號等ノ第百七十九條及ヒ

百八十條ノ用ニ充ツル者ヲ偽造若シハ變造シ或ハ偽物ヲ用フル者

ハ監役ニ處ス可シ

第百八十七條 凡ソ外國ノ印章、極印、證印ノ記號等ヲ不法ニ得テ其國

若クハ民ノ害トナルニ用フル者ハ一月ヨリ二年マテノ獄ニ處ス可

シ

若シ其果サ、ル者ハ八日ヨリ六月マテノ獄ニ處ス可シ

第百八十八條 凡ソ郵便切手及ヒ其他貼用證印紙ノ白國竝ニ外國ニ

屬スル者ヲ偽造シ若シハ肆店ニ出シ若クハ用フル者ハ二月ヨリ三

年マテノ獄ニ處シ且ツ第三十三條ノ奪權ニ處スルコアリ

若シ其偽造ヲ果サ、ル者ハ一月ヨリ一年マテノ獄ニ處ス可シ

第百八十九條 凡ソ郵便切手及ヒ貼用證印紙ノ偽造物ヲ得之ヲ用フ

ル者ハ八日ヨリ一月マテノ獄ニ處ス可シ

第百九十條 凡ソ郵便切手及ヒ貼用證印紙符契等ノ已ニ用ヒタル跡

ヲ消却スル等ノ印紙ヲ用フル者ハ皆ナ二十六「ヲラソク」ヨリ三百「フ

ラソク」マテノ罰金ヲ命ス可シ

第百九十一條 凡ソ製造物ノ記號ヲ除キ或ハ變造シ或ハ眞記號上ニ

他ノ記號ヲ貼用シ或ハ貼用シシメ或ハ製造人名ヲ冒ス者ハ一月ヨ

リ六月マテノ獄ニ處ス可シ

商人及ヒ中介者等偽銘若シハ變銘ノ物品ヲ販賣スル者モ罪同シ

前三章通用法

第百九十二條 凡ソ第百六十條ヨリ第百六十八條ニ至ルマテ第百七



十一條ヨリ第七十六條ニ至ルマテ及ヒ第八十條末段ノ犯罪人等其贗貨、變質貨、偽造、變造貼用證印紙類ヲ未ダ用ヒス官ノ搜索ヲ待タヌシテ本犯ヲ告訴スレハ坐セス

第四章 書寫電報ノ偽造

第九十三條 凡ソ有心ニシテ書寫及ヒ電報ニ偽書スル者ハ下條ニ循テ罪ヲ科ス可シ

第一套 公私商賈ノ偽書

第九十四條 凡ソ内外官吏其職務ノ幹事ニシテ署名ヲ偽ル者  
文書署名若シハ文書ヲ變造スル者  
無實ノ人名ヲ署スル者  
文案簿籍ニ後ヨリ加筆填字スル者  
以上ハ皆十年ヨリ十五年マテノ懲役ニ處ス可シ

第九十五條 凡ソ官吏其官省ノ文案ヲ書シ其體面模樣ヲ換フルニ於テ雙方申出ノ契約ヲ違ヘ或ハ虛ヲ實トスル者ハ十年ヨリ十五年マテノ懲役ニ處ス可シ

第九十六條 凡ソ公私商賈ノ諸文書ニ偽名ヲ署シ或ハ書體ヲ變造若シハ偽造シ或ハ諸契約若シハ罷職ノ事ヲ書シ或ハ後ヨリ之ヲ填シ無實ノ事情ヲ本條ニ加ヘ或ハ之ヲ變造スル等ノ常人犯ハ皆十監役ニ處ス可シ

第九十七條 凡ソ本套ニ掲載セル諸條ノ偽造券及ヒ偽造書ヲ用フル者ハ皆十其偽造者ト同罪

第二套 旅券、佩兵免狀、冊子、兵役ノ路券其他諸證券ノ偽造

第九十八條 凡ソ旅券、佩兵免狀、冊子、職人ノ生國姓名等ヲ記シ製造場ノ出入巡行等ニ用フル冊子ナリヲ偽造若シハ變造スル者或ハ其



偽造物ヲ用フル者ハ一月ヨリ一年マテノ獄ニ處ス可シ

第百九十九條 凡ソ旅券、佩兵免狀、冊子ヲ得ント要シ姓名ヲ偽ル者及

ヒ其證據人ト爲ル者ハ八日ヨリ六月マテノ獄ニ處ス可シ

第二百條 凡ソ兵役路券ヲ製作シ偽造變造スル者及ヒ此等ノ路券ヲ

用フル者ハ一月ヨリ二年マテノ獄ニ處ス可シ

第二百一條 凡ソ兵役路券ヲ得ルニ姓名ヲ偽リ或ハ其身分ヲ偽ル者

ハ八日ヨリ二年マテノ獄ニ處ス可シ

第二百二條 凡ソ旅券、佩兵免狀、冊子、兵役路券ヲ請フ者ニ其者ヲ識ル

證據人二名ヲ要セスシテ與フル者ハ二十六「フ」ラン「ク」ヨリ二百「フ」ラ

ン「ク」マテノ罰金ヲ命ス可シ

若シ其偽タルヲ知テ以上ノ諸券ヲ與フル官吏ハ六月ヨリ二年マテ

ノ獄ニ處ス可シ

に

若シ以上ノ諸券ヲ與フルニ賄賂ヲ受ケ若クハ受ク可キヲ約スル官

吏ハ一年ヨリ五年マテノ獄ニ處ス可シ

以上二段ニ於テハ本刑ノ外尙ホ第三十三條ノ奪權ニ處スル「フ」アリ

第二百三條 凡ソ公役若クハ公務ヲ免カレ或ハ免カレシメント欲シ

醫ノ姓名ヲ用ヒ或ハ自カラ詐テ醫ト稱シ疾病若クハ癱疾者ノ證券

ヲ偽造スル者ハ八日ヨリ一年マテノ獄ニ處ス可シ

第二百四條 凡ソ公役公務ヲ免カレシムル爲メ癱疾、疾病等ノ無實證

券ヲ與フル醫師ハ八日ヨリ二年マテノ獄ニ處ス可シ

若シ財ヲ受ケ若クハ受ク可キヲ承諾スル者ハ一年ヨリ五年マテノ

獄ニ處シ且ツ第三十三條ノ奪權ニ處スル「フ」アリ

第二百五條 凡ソ人ニ公私賤貸官職扶助等ヲ得セシメント欲シ偽テ

其善行ヲ稱シ或ハ其資窮ヲ唱ヘ官員ノ姓名ヲ以テ無實ノ證券ヲ與



フル者ハ一月ヨリ二年マテノ獄ニ處ス可シ  
若シ常人ノ姓名ヲ以テ證券ヲ與フル者ハ八日ヨリ六月マテノ獄ニ  
處ス可シ

第二百六條 凡ソ官員ノ姓名ヲ用ヒテ證券ヲ造リ公私ノ利益ヲ害ス  
ルニ充ツル者ハ六月ヨリ五年マテノ獄ニ處シ第三十三條ノ奪權ニ  
處ス可シ

常人ノ姓名ヲ用ヒテ證券ヲ造ル者ハ二月ヨリ一年マテノ右同罪ニ  
處ス可シ

第二百七條 凡ソ證券ヲ變造スル者及ヒ第二百三條二百四條二百五  
條二百六條ニ掲載スル偽證券ヲ用フル者ハ各條ニ據テ論シ其本刑  
ニ處ス可シ

第二百八條 凡ソ内外官吏其職務上ノ事ニ關シ偽證券ヲ與ヘ或ハ變

造シ偽證券ヲ用フル者ハ監役ニ處ス可シ

第二百九條 凡ソ官ノ證券ヲ得セシムル爲メ實ナキノ事ヲ詐リ證ス  
ル者ハ八日ヨリ二年マテノ獄ニ處ス可シ

若シ詐リ證シ財ヲ受ケ若クハ受ク可キヲ承諾スル者ハ同罪六月ヨ  
リ三年マテトシ且ツ第三十三條ノ奪權ニ處スルヲアリ

第二百十條 凡ソ旅亭等ノ主人名簿上ニ客ノ姓名ヲ變シ若クハ無實  
ノ姓名ヲ書シ或ハ其簿籍ヲ變造スル者ハ八日ヨリ三月マテノ獄ニ  
處ス可シ

第三套 電報ノ偽造

第二百十一條 凡ソ電信局ノ官吏其職務上ニ於テ偽報ヲ造リ若クハ  
其報ヲ變造スル者ハ一年ヨリ五年マテノ獄ニ處ス可シ

第二百十二條 凡ソ偽報ヲ用フル者ハ其偽報ヲ造ル者ト同罪タル可



以上四章ノ通用法

第二百十三條 凡ソ偽造、變造ノ貨幣、證券、制符、紙幣、印章、印紙、極印、記號、

電報偽書等ヲ用フルモ他人ニ害ヲ及ホスノ心ナキ者ハ無罪

第二百十四條 凡ソ以上四章中別ニ罰金ヲ記セサル各條犯罪ハ皆ナ

二十六「フラン」ヨリ二千「フラン」マテノ罰金ヲ命ス可シ

第五章 偽證及ヒ偽誓

第二百十五條 凡ソ重罪犯ノ證據人ニシテ偽ル者ハ其犯人ノ利又ハ

害タルヲ論セス監役ニ處ス可シ

第二百十六條 凡ソ偽證ヲ爲シ因テ犯人ヲ禁錮十年以上若クハ懲役

ニ處セシムル者ハ十年ヨリ十五年マテノ懲役ニ處ス可シ

若シ偽證ヲ爲シ因テ死刑ニ致ス者ハ終身懲役トス

第二百十七條 凡ソ唯、裁判所ニ出庭シ事情ヲ陳スルノミニシテ(證據

人ニ非ス)偽リヲ證スル者ハ犯人ノ利又ハ害タルヲ論セス第八十條

ニ據テ論シ證據人ニ一等ヲ減ス

第二百十八條 凡ソ輕罪犯ノ證據人ニシテ偽ル者ハ本犯ノ利害ヲ論

セス六月ヨリ五年マテノ獄ニ處ス可シ

第二百十九條 凡ソ違警犯罪ノ證據人ニシテ偽ル者ハ本犯ノ利害ヲ

論セス三月ヨリ一年マテノ獄ニ處ス可シ

第二百二十條 凡ソ民事訴訟ノ證據人ニシテ偽ル者ハ二月ヨリ三年

マテノ獄ニ處ス可シ

第二百二十一條 凡ソ原告被告ノ利害ヲ論セス重罪、輕罪、違警罪、民事

訴訟等ニ於ケル譯官若クハ鑑定人ニシテ偽ル者ハ第二百十五條ニ

百十六條、二百十八條、二百十九條及ヒ二百二十條ニ據テ論シ罪證據



人ニシテ偽ル者ニ同シ

若シ重罪件ノ鑑定人ニシテ誓ヲ爲サス偽ル者ハ第二百十七條ノ法ニ處ス可シ

第二百二十二條 凡ソ以上五條ノ犯人ハ本刑ノ外尙ホ第三十三條ノ奪權ニ處スルコトアリ

第二百二十三條 凡ソ證據人若シハ鑑定人若シハ譯官ヲ蠱誘シ詐ラシムル者ハ罪蠱誘セラル、者ニ同シ即チ第二百十五條ヨリ第二百二十二條マテノ區別ニ循フ

第二百二十四條 凡ソ財ヲ受ケ若シハ受ク可キヲ聽ルシ偽證ヲ爲ス者ハ本刑ノ外尙ホ五十フランクヨリ三千フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ

其送テ蠱誘スル者モ本刑ノ外尙ホ五十フランクヨリ三千フランク

マテノ罰金ヲ命ス可シ

第二百二十五條 凡ソ十六歳ニ滿タサル者及ヒ犯人ノ内外親戚ニシテ誓ヲ爲サス偽證ヲ爲シ其犯人ニ利スル者ハ論スル勿レ

第二百二十六條 凡ソ民事訴訟ニ於ケル誓約ニ賴テ案斷ス可キニ際シ其偽誓約ヲ爲ス者ハ六月ヨリ三年マテノ獄ニ處シ二十六フランクヨリ一萬フランクマテノ罰金ヲ命シ尙ホ第三十三條ノ奪權ニ處スルコトアリ

第六章 官職ヲ篡奪シ稱號姓名ヲ冒稱ス

第二百二十七條 凡ソ内外文武官職ヲ僭稱スル者ハ一月ヨリ二年マテノ獄ニ處ス可シ

第二百二十八條 凡ソ其官若クハ爵ニ在ラスシテ公ケニ官服制服ヲ著シ或ハ賞牌及ヒ諸權ノ票記ヲ佩ル者ハ二百フランクヨリ一千フ



ラソク「マテ」ノ罰金ヲ命ス可シ

第二百二十九條 凡ソ白國人ニシテ公ケニ外國ノ賞牌票記ヲ佩ル其國主ノ允許ニ非サル者ハ五十「フランク」ヨリ五百「フランク」マテノ罰金ヲ命ス可シ

第二百三十條 凡ソ其位ニ在ラスシテ公ケニ貴號ヲ稱スル者ハ二百「フランク」ヨリ一千「フランク」マテノ罰金ヲ命ス可シ

第二百三十一條 凡ソ公ケニ他人ノ姓名ヲ冒ス者ハ八日ヨリ三月マテノ獄ニ處シ二十六「フランク」ヨリ三百「フランク」マテノ罰金ヲ命ス可シ若クハ唯此一刑ニ處ス可シ

第二百三十二條 凡ソ官吏公事ノ文書ニ人ノ姓名貴號ヲ記シ其偽リナルヲ知テ黙過スル者ハ二百「フランク」ヨリ一千「フランク」マテノ罰金ヲ命ス可シ

第四篇 官吏、僧徒、公務、說教ニ因テ安寧ヲ害スル輕重罪

第一章 官吏ノ通謀

第二百三十三條 凡ソ官吏數人相議シテ國法王命ニ戾レル處分ヲ爲サントシ謀略已ニ成ル者ハ各一月ヨリ六月マテノ獄ニ處ス可シ

第二百三十四條 凡ソ官吏數人相議シテ國法王命ノ施行ニ戾ラントシ謀略已ニ成ル者ハ六月ヨリ五年マテノ獄ニ處ス可シ

此等ノ犯人ハ本刑ノ外尙ホ第三十一條ニ掲載セル一二三ノ奪權ニ處スルコトアリ

若シ通謀ニ兵隊又ハ其指揮官ヲ誘導スル者ハ主謀ハ十年ヨリ十五年マテノ禁錮ニ處シ他ハ皆十同刑五年ヨリ十年マテトス

第二百三十五條 凡ソ文武ノ官吏通謀シ因テ國難ヲ招ク者ハ主謀ハ非常禁錮ニ處シ他ハ皆十年ヨリ十五年マテノ禁錮ニ處ス可シ



第二百三十六條 凡ソ官吏通謀シ公務ヲ停止セント欲シ終ニ辭職スル者ハ一月ヨリ二年マテノ獄ニ處シ百フランクヨリ五百フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ

此等ノ犯人ハ尙ホ公權官吏トナヲ奪フコアリ

第二章 施政、司法兩省互ニ其權ヲ相侵ス

第二百三十七條 凡ソ裁判官、檢事局官吏、警保官吏等或ハ立法官ニ屬スル條例ヲ設ケ或ハ國法施行ヲ命シ若クハ之ヲ停メ或ハ國法ノ施行ス可キヤ否ヲ討論シ立法權ニ干涉スル者或ハ行政事務ニ條例ヲ設ケ若クハ行政官命令ノ施行ヲ禁シ因テ行政權ニ干涉シ其職分ヲ失フ者ハ一月ヨリ二年マテノ獄ニ處シ五十フランクヨリ五百フランクマテノ罰金ヲ命シ尙ホ第三十一條一二三ノ奪權五年ヨリ十年マテノ者ヲ科スルコアリ

第二百三十八條 凡ソ裁判官タル者行政官ト權ヲ爭ヒ大審院ノ判決ヲ待タズ審判處決スル者ハ二十六フランクヨリ五百フランクマテ

ノ罰金ヲ命ス可シ其審判ニ關スル檢事モ同罪トス

第二百三十九條 凡ソ縣令、郡司、里正及ヒ其他行政官吏ニシテ第二百三十七條第二段ノ如ク立法權ヲ侵ス者及ヒ命令ヲ出シ大小裁判所ノ職分ヲ妨クル者ハ一月ヨリ二年マテノ獄ニ處シ五十フランクヨリ五百フランクマテノ罰金ヲ命シ尙ホ第三十一條一二三ノ奪權ニ處スルコアリ

第三章 官吏公私ノ貨物ヲ私シ又ハ聚斂ス

可シ

第二百四十條 凡ソ内外官吏其職分若クハ其官職ノ地位ヲ負ミ己レ管理スル所公私ノ金銀、楮幣、書券、證票等ヲ私利スル者ハ監役ニ處ス



若シ其賊受スル所俸錢ノ額ニ越ヘサル者ハ一月ヨリ六月マテノ獄ニ處ス可シ

第二百四十一條 凡ソ内外官吏書券文書等ヲ監守シ或ハ其官職ノ地位ヲ負ミ他ヨリ贈遺スル物ヲ故サラニ棄毀スル者ハ監役ニ處ス可シ

第二百四十二條 凡ソ刑事罪案簿籍及ヒ諸文案ヲ監守シ誤テ棄毀スル者或ハ盜マル、ヲ知ラサル者ハ八日ヨリ六月マテノ獄ニ處ス可シ

第二百四十三條 凡ソ内外官吏租税入額俸祿等ヲ科シ非理ノ收斂ヲ爲ス者ハ六月ヨリ五年マテノ獄ニ處シ尙ホ公權剝奪ニ處スルコトアリ若シ其暴威胁迫ヲ用フル者ハ監役ニ處ス可シ

第二百四十四條 凡ソ本章ノ犯人ハ皆ナ五十ノランクヨリ一千フラン

シマテノ罰金ヲ命ス可シ且ツ諸官署使役ノ者モ總テ其公務ニ關スルハ皆ナ本章ニ據テ論ス

別殊ノ條款

第二百四十五條 凡ソ内外官吏錢穀貨物等ヲ管シ計算賣買等ノ事務ニ因リ公物ヲ以テ私利ヲ營ム者若クハ介者ヲ用ヒ私利ヲ行フ者ハ三月ヨリ二年マテノ獄ニ處シ五十フランクヨリ三千フランクマテノ罰金ヲ命シ尙ホ第三十三條ノ奪權ニ處スルコトアリ但シ其事務ト位地トノ故ニ因リ私利ヲ營ミ得ス且ツ其事ノ公ケニ出ル者ハ論スル勿レ

第四章 官吏財ヲ受ク

第二百四十六條 凡ソ内外官吏財ヲ受ケ或ハ受ク可キヲ聽ルシ或ハ餽贈ヲ受ケ或ハ贈ル可キヲ許諾シ其官職ヲ賴テ事ヲ行フ者ハ其行



フ所ノ者理ニ戻ラサルモ職分ヲ越ルノ事タレハ八日ヨリ六月マテノ獄ニ處シ二十六フランクヨリ五百フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ

若シ官吏財物餽贈ヲ受ケ若クハ贈ル可キヲ許諾シ人ノ不正ヲ爲スニ便スル者及ヒ其本分ヲ遁レシムル者ハ一月ヨリ一年マテノ獄ニ處シ五十フランクヨリ一千フランクマテノ罰金ヲ命シ尙ホ第三十三條ノ奪權ニ處スルコアリ

第二百四十七條 凡ソ内外官吏財物餽贈ヲ受ケ若クハ贈ル可キヲ許諾シ不正ヲ爲ス者及ヒ其本分ヲ充サ、ル者ハ三月ヨリ三年マテノ獄ニ處シ百フランクヨリ三千フランクマテノ罰金ヲ命シ尙ホ第三十三條ノ奪權ニ處スルコアリ

第二百四十八條 凡ソ内外官吏財物餽贈ヲ受ケ若クハ贈ル可キヲ許諾シ承行ノ事務ニ於テ重輕罪ヲ犯サシムルニ便スル者ハ一年ヨリ五年マテノ獄ニ處シ二百フランクヨリ五千フランクマテノ罰金ヲ命シ尙ホ第三十三條ノ奪權ニ處スル事アリ

第二百四十九條 凡ソ裁判官情ニ因テ故出入スル者ハ十年ヨリ十五年マテノ懲役ニ處ス可シ中人若クハ工職裁判人情ニ因テ枉ル所アル者ハ一年ヨリ五年マテノ獄ニ處シ尙ホ第三十三條ノ奪權ニ處スルコアリ

第二百五十條 凡ソ陪審情ニ因テ枉ル所アル者ハ監役ニ處ス可シ第二百五十一條 凡ソ裁判官、中人、工職裁判人、陪審財物餽贈ヲ受ケ若クハ贈ル可キヲ許諾シ枉ル所アル者ハ本刑ノ外二百フランクヨリ五千フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ

第二百五十二條 凡ソ強暴脅迫若クハ貨賄ヲ贈リ内外官吏陪審中人、



工職裁判人ニ其職務上ニ於テ事ヲ行ハシメント要シ又ハ其本分ニ  
屬スルノ事ヲ廢セント要シ假令ヒ條理ナラサルモ其給料外ノ事ヲ  
辨セシメントスル者ハ其諸官吏ト同科ニ處ス可シ

若シ其強迫及ヒ利誘ヲ遂ケサル者ハ八日ヨリ一年マテノ獄ニ處シ  
二十六フランクヨリ五百フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ

第二百五十三條 凡ソ是等ノ貨賄ハ下付セスシテ皆ナ其犯罪即行ノ

邑廳ニ收メ邑ノ病院若クハ救恤院ノ費用ニ充ツ可シ

第五章 官吏威福ヲ擅ニス

第二百五十四條 凡ソ内外官吏國法王命省司府縣等ノ命令及ヒ判決

施行及ヒ收稅等ニ抗シ軍民ヲ募ラント要シ若クハ募ラシメ又ハ軍  
民ヲ用ヒント要シ若クハ用ヒシムル者ハ一年ヨリ五年マテノ獄ニ  
處ス可シ

法

是等ノ犯人ハ尙ホ第三十一條一二三ノ奪權ニ處スルコトアリ

第二百五十五條 凡ソ前條ノ犯人既ニ其事ヲ成就スル者ハ五年ヨリ

十年マテノ禁錮ニ處ス可シ

第二百五十六條 凡ソ前二條ノ所爲ニ因リ尙ホ他ノ重罪ヲ犯ス者ハ

重キニ依テ論ス

但シ其死刑ニ該ル者ハ一等ヲ減シ終身懲役ニ處ス可シ

第二百五十七條 凡ソ内外官吏裁判官地方官吏若クハ將校等其職務

上ニ於テ猥リニ威福ヲ擅ニシ人ニ強暴ヲ加フル者ハ第二百六十六

條ニ據テ論シ重キニ從テ罪ヲ科ス

第二百五十八條 凡ソ裁判官及ヒ行政官吏口實ヲ逞フシ事ニ當テ故

サラニ知ラサルヲ爲シ或ハ法ノ曖昧ヲ稱シ至當ノ處分ヲ怠タリ審

判ヲ忽セニスル者ハ二百フランクヨリ五百フランクマテノ罰金ヲ



命シ尙ホ有可タル可キノ公權ヲ奪フコアル可シ

第二百五十九條 凡ソ將及ヒ上下等士官タル者政令ニ戻リ用兵ヲ拒ム者ハ十五日ヨリ三月マテノ獄ニ處ス可シ

前數章通用法

第二百六十條 凡ソ官吏士官國法王命ニ背クト雖モ其長官ノ命ヲ奉シ階級ヲ論スルニ其指揮ニ從ハサルヲ得サル者ハ無罪トス即チ其指揮スル者ノミ刑ニ處ス可シ

第六章 官吏進退去就ノ際分外ノ職ヲ侵ス

第三百六十一條 凡ソ官吏未タ國法ニ據テ誓詞ヲ爲サ、ルノ前ニ職務ヲ行フ者ハ二十六フランクヨリ五百フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ

第二百六十二條 凡ソ官吏辭職免官停職スルノ公告ヲ得テ猶ホ職ニ

在ル者ハ八日ヨリ一年マテノ獄ニ處シ二十六フランクヨリ五百フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ

若シ撰擧ニ係リ期限アル官吏期滿チテ職ヲ退カサル者ハ罪前段ニ同シ

第七章 戶籍調査ニ關スル輕罪

第二百六十三條 凡ソ戶籍官吏其文案ヲ片紙ニ書スル者ハ八日ヨリ三月マテノ獄ニ處シ五十フランクヨリ三百フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ片紙ハ帖ニ綴チサ  
藥紙ヲ云フ

第二百六十四條 凡ソ婚姻ノ證書ニ承諾ノ條目ヲ掲載スルヲ失シ若シハ國法ニ定ムル文例ヲ登記セサル者

以上承諾文例ノ有無ヲ問ハズ婚儀ヲ行ハシムル者

民法第二百二十八條ニ載ル所ノ定期前ニ婚儀ヲ行ハシムル者



寡兵ノ規則ニ違フヤ否ヤヲ證セスシテ婚儀ヲ行ハシムル者  
以上ハ皆ナニ二十六フランクヨリ五百フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ  
第二百六十五條 凡ソ承諾ヲ要セサル可カラサル親族ノ意ニ反シ婚  
儀ヲ行ハシムル者ハ三月ヨリ一年マテノ獄ニ處シ五十フランクヨ  
リ五百フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ

別殊ノ條款

第二百六十六條 凡ソ重輕罪ノ警戒鎮撫追捕ニ任スル官吏タル者反  
テ其重輕罪ニ與ニスル者ハ本犯ト同科ニ處ス可シ其獄ニ該ル者ハ  
至輕チ一倍ス至輕ハ二十日之ヲ  
一倍ス則チ十五日之ヲ

其監役禁錮及ヒ有期懲役ニ該ル者ハ其至輕ニ二年ヲ加フ

第八章 說教僧徒職務上ニ犯ス有リ

第二百六十七條 凡ソ婚姻ヲ爲スニ於テ俗禮宗旨ノ禮ヲ行ハサルノ  
シキル

前ニ僧徒先ツ宗禮ヲ行フ者ハ別ニ殊法有ルニ非サレハ五十フラン  
クヨリ五百フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ

其再犯スル者ハ本刑ノ外八日ヨリ三月マテノ獄ニ處ス可シ

第二百六十八條 凡ソ僧徒衆人中ニ職務ヲ行ヒ詞辭ヲ以テ政府國法  
王命其他官吏ノ所爲ヲ直ニ誹謗スル者ハ八日ヨリ三月マテノ獄ニ  
處シ二十六フランクヨリ五百フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ

第五篇 常人靜謐ヲ害スル輕重罪

第一章 抗法

第三百六十九條 凡ソ裁判所附屬ノ官吏ナラビシニニステリ、代理人、代書人、書記、照憑人等  
ノ總稱、森守、田守、兵士、收稅官、逮捕官吏、互市海口稅官、行政司法ノ警保  
官吏及ヒ國法、官省ノ命令若クハ判決施行等ニ暴行強迫ヲ以テ抗拒  
スル者ヲ稱シテ抗法ト云フ



第二百七十條 凡ソ官ノ電信局官吏及ヒ官ノ電信官吏ニ非スト雖モ公報ニ任スル電信掛リ等ニ暴行脅迫ヲ以テ抗拒スル者モ亦抗法ト云フ  
第二百七十一條 凡ソ唯一人兇器ヲ持シ抗法スル者ハ三月ヨリ二年マテノ獄ニ處ス可シ若シ兇器ヲ持セサル者ハ八日ヨリ六月マテノ獄ニ處ス可シ

第二百七十二條 凡ソ衆人共ニ謀リ豫メ策略ヲ議シ抗法スル者ハ其兇器ヲ持スルハ監役持セサルハ一年ヨリ五年マテノ獄ニ處ス可シ若シ豫メ謀議セズ衆人共ニ抗法スル者ハ其兇器ヲ持スルハ一年ヨリ五年マテノ獄ニ處ス可シ持セサルハ三月ヨリ二年マテノ獄ニ處ス可シ

第二百七十三條 凡ソ兇徒兵卒ヲ聚メ抗法スル者其黨中ニ職務ヲ行ハス鎮撫第一ノ令ヲ聞キ黨ヲ脱シ若クハ爾後黨衆外ニ捕ハレ更ニ

抗拒スル無ケレハ第三十四條ノ罪ヲ科ス可シ

第二百七十四條 凡ソ抗法律ニ據テ論シ罪獄ニ該ル者ハ皆十本刑ノ外尙ホ二十六フランクヨリ二百フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ  
抗法犯ノ首長及ヒ謀首ハ本刑ノ外尙ホ五年ヨリ一年マテノ警察ヲ受ケシメ且ツ第三十三條ノ奪權ニ處スルコアリ

第二章 宰相、立法官、全權官吏官ヨリ官一權ヲ委任ニ對スル不敬及ヒ暴行

第二百七十五條 凡ソ立法官、司法官、行政官、宰相及ヒ長官等ノ職務ヲ理スルニ當リ行事言語體姿若クハ脅迫ヲ以テ不敬ヲ爲ス者ハ十五日ヨリ六月マテノ獄ニ處シ五十フランクヨリ三百フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ

若シ院中會議ノ席或ハ裁判所聽訟ノ席ニ不敬ヲ爲ス者ハ二月ヨリ



二年マテノ獄ニ處シ二百フランクヨリ一千フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ

若シ兩院議官ニ不敬ヲ加フル者ハ現行犯ノ外ハ其不敬ヲ受ル議官若シハ其院ヨリ告訴スルニ非サレハ刑ニ處セズ

第二百七十六條 凡ソ行事體姿、言語、脅迫ヲ以テ裁判ノ命ヲ傳フル官吏及ヒ文武官員其他諸官吏ノ職務ヲ理スルニ當リ不敬ヲ加フル者ハ八日ヨリ一月マテノ獄ニ處シ二十六フランクヨリ二百フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ

第二百七十七條 凡ソ官省寮司等ニ不敬ヲ加フル者ハ其官省寮司等ノ官吏ニ不敬ヲ加フル者ト罪同シ但シ前二條ノ區別ニ從ヒ罪ヲ科ス可シ

第二百七十八條 凡ソ兩院議官宰相及ヒ裁判長官ヲ其職務奉行ノ際

ニ毆ツ者ハ二月ヨリ二年マテノ獄ニ處シ五十フランクヨリ五百フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ

若シ院中會議ノ席或ハ聽訟所ニ於テ毆ツ者ハ三月ヨリ三年マテノ獄ニ處シ二百フランクヨリ一千フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ

第二百七十九條 凡ソ毆傷シ出血若クハ疾病ノ原因トナル者ハ六月ヨリ五年マテノ獄ニ處シ二百フランクヨリ一千五百フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ

第二百八十條 凡ソ裁判所ノ命ヲ傳フル官吏全權官吏及ヒ其他諸官吏ヲ職務奉行ノ際ニ毆ツ者ハ一月ヨリ二年マテノ獄ニ處シ五十フランクヨリ三百フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ

九八 第二百八十一條 凡ソ毆傷シ出血若クハ疾病ノ原因トナル者ハ三月ヨリ二年マテノ獄ニ處シ一百フランクヨリ五百フランクマテノ罰



金ヲ命ス可シ

第二百八十二條 凡ソ陪審及ヒ證據人ニ不敬ヲ加ヘ若クハ毆ツ者ハ

第二百七十五條 二百七十八條及ヒ二百七十九條ニ據テ論シ罪ヲ科

ス可シ

第三章 緘印破毀

第二百八十三條 凡ソ官省寮司等ノ緘印ヲ誤毀スル監守ハ八日ヨリ

六月マテノ獄ニ處ス可シ

第二百八十四條 凡ソ官省寮司等ノ緘印ヲ故サテニ破毀スル者ハ六

月ヨリ二年マテノ獄ニ處ス可シ

若シ其監主或ハ緘印シ若クハ之ヲ命スル官吏故サテニ破毀スル者

ハ一年ヨリ三年マテノ獄ニ處ス可シ

其破毀セントシテ果サル常人ハ三月ヨリ一年マテノ獄ニ處ス可

シ 監守官吏等ハ六月ヨリ二年マテノ獄ニ處ス可シ

第二百八十五條 凡ソ死刑終身懲役ノ被告人及ヒ犯罪若クハ判決人

ノ文書記 錄 若クハ貨物衣服 荷 物ニ貼用セル緘印ノ破ル、チ覺ラサル

監守ハ三月ヨリ一年マテノ獄ニ處ス可シ警ヘハ反賊ノ疑ヒヲ被ム

ヲ遣リ之ヲ縛シ其人ヲ卓上ニ在ル諸記録類及ヒ貨物類ハ其時ノ

第二百八十六條 凡ソ前條ニ掲載セル文書貨物ノ緘印ヲ故サテニ毀

損スル者ハ一年ヨリ三年マテノ獄ニ處ス可シ若シ其監守又ハ緘印

ヲ命スル官吏コシテ故サテニ毀損スル者ハ二年ヨリ五年マテノ獄

ニ處ス可シ

其果サル第一ノ事ニ涉ル者ハ六月ヨリ二年マテノ獄ニ處シ第二

ノ事ニ涉ル者ハ一年ヨリ三年マテノ獄ニ處ス可シ

第二百八十七條 凡ソ人ニ強暴ヲ加ヘ緘印ヲ破毀スル者ハ二年ヨリ



五年マテノ獄ニ處ス可シ

若シ其果サ、ル者ハ六月ヨリ三年マテノ獄ニ處ス可シ

第二百八十八條 凡ソ第二百八十四條二百八十六條及ヒ二百八十七

條ノ犯罪ハ尙ホ五十フランクヨリ二千フランクマテノ罰金ヲ命ス

ルコアリ

第四章 公業ヲ妨害ス

第二百八十九條 凡ソ該官ノ允許ヲ受ケ公業ヲ爲ス者ヲ事ニ因テ妨

クル者ハ八月ヨリ三月マテノ獄ニ處ス可シ

第二百九十條 凡ソ聚群暴行或ハ脅迫ヲ以テ公業ヲ妨クル者ハ三月

ヨリ二年マテノ獄ニ處ス可シ

其首謀ハ六月ヨリ三年マテノ獄ニ處ス可シ

第二百九十一條 凡ソ以上二條ノ犯罪人ハ尙ホ二十六フランクヨリ

五百フランクマテノ罰金ヲ命スルコアリ

第五章 供給者ノ輕重罪

第二百九十二條 凡ソ海陸軍ノ用度供給等ニ任スル者故サラニ其用

ヲ闕カシムレハ監役ニ處シ二百フランクヨリ三千フランクマテノ

罰金ヲ命ス可シ

其用度供給ニ使役セラル、者ニシテ故サラニ其用ヲ納メシメサル

者ハ罪前段ニ同シ

第二百九十三條 凡ソ官吏以上ノ犯罪ニ力ヲ加フル者ハ懲役七年ニ

處シ三百フランクヨリ三千フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ

第二百九十四條 凡ソ前條ノ犯罪怠解ニ出ル者ハ供給人及ヒ其使役

人及ヒ官吏共ニ皆ナ三月ヨリ二年マテノ獄ニ處シ一百フランクヨ

リ一千フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ



第二百九十五條 凡ソ前條ノ如キ調達等ノ事ニ關シ故サラニ期ヲ失フ者ハ六月ヨリ二年マテノ獄ニ處シ二百フランクヨリ一千フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ

若シ怠懈ニ因テ期ヲ失スル者ハ一月ヨリ一年マテノ獄ニ處シ五十フランクヨリ五百フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ

第二百九十六條 凡ソ第二百九十四條二百九十五條及ヒ其第二段ニ記載セル犯罪ニ於テハ其主任宰相ノ告訴ヲ待テ追捕ス可シ

第二百九十七條 凡ソ調納スル物品ノ製作量目品位等ニ奸計ヲ施ス者ハ六月ヨリ三年マテノ獄ニ處シ一百フランクヨリ一萬フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ

此等ノ犯罪ハ尙ホ第三十三條ノ奪權ニ處スルコトアリ

第二百九十八條 凡ソ官吏上條ノ犯罪ニ與ミスル者ハ二年ヨリ五年

マテノ獄ニ處シ二百フランクヨリ一萬フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ尙ホ第三十三條ノ奪權ニ處スルコトアリ

第六章 著述者ノ姓名及ヒ著述者若クハ印刷者ノ居所ヲ記セサル印刷書類

第二百九十九條 凡ソ印刷書類(書畫日誌類ノ總稱)ノ著者或ハ印刷者ノ姓名及ヒ住所ヲ記スルニ實ヲ以テセサル者ヲ發行分布スルニ故サラニ加カスル(出銀等ニテ)者ハ八日ヨリ二月マテノ獄ニ處シ二十フランクヨリ二百フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ或ハ唯此ニテ科ス可シ

然レモ前板已ニ法ニ從ヒ姓名居所等ヲ記スル者ニシテ後ノ追加法等ニ違ヘルハ獄ニ處ス可カラズ

第三百條 凡ソ印刷人ヲ告訴スル者及ヒ呼賣人、<sup>ハリスケルヒト</sup>點賣人、販賣人、分派人



等ニシテ其印書類ヲ出ス者ヲ告訴スル者ハ坐セス

第七章 賑給票、賭房及ヒ典鋪ニ關スル犯罪

第三百一條 凡ソ圖ヲ用ヒテ人ニ利ヲ圖ラシムル者ヲ稱シテ賑給票ト云フ

第三百二條 凡ソ官許ヲ受ケス賑給票ヲ施行スル發行人、管主人等ハ皆十八日ヨリ三月マテノ獄ニ處シ五十フランクヨリ三千フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ其賑給票ニ備ヘタル物品ハ皆ナ官ニ沒入ス可シ

若シ不動産ヲ賭スル者沒入ニ處セス一百フランクヨリ一萬フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ

第三百三條 凡ソ官許ヲ受ケサル賑給票ノ證券ヲ分派販賣スル者、揭壁、新聞等ニテ賑給ヲ公布スル者等ハ皆十八日ヨリ一月マテノ獄ニ

ハ

處シ二十六フランクヨリ一千フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ若クハ唯、此一ヲ科ス可シ

證票、揭壁、公告書類ハ直ニ消却ス可シ

第三百四條 凡ソ證票ヲ持シテ分派シ或ハ壁ニ公告書ヲ貼スル者等ノ其書類ヲ發行スル者ヲ告ルハ坐セス

第三百五條 凡ソ官許ヲ受ケス賭房ヲ開キ或ハ衆ノ出入ヲ自在ニシ或ハ人ヲ其場ニ誘導スル者ハ賭主及ヒ其他ノ管當人共ニ皆十八日ヨリ六月マテノ獄ニ處シ一百フランクヨリ五千フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ且ツ第三十三條ノ奪權ニ處スルコトアリ

賭房ニ在ル財物及ヒ賭具ハ皆ナ官ニ沒入ス可シ

第三百六條 凡ソ官許ナシ典物鋪ヲ開ク者ハ八日ヨリ三月マテノ獄ニ處シ二十六フランクヨリ一千フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ



第三百七條 凡ソ官許ヲ受ケテ開キタル典物鋪ノ簿籍規則貸渡ス可  
キ金高或ハ物品負債主ノ姓名、住所、職業、典物ノ目錄及ヒ其品位價直  
等ヲ餘白ヲ存セス滿葉ニ連署スルヲ規則トスニ違フ者ハ八日ヨリ  
一月マテノ獄ニ處シ二十六フランクヨリ五百フランクマテノ罰金  
ヲ命ス可シ若シハ唯此一ヲ科ス可シ

第三百八條 凡ソ常ニ人ノ爲メニ賃錢ヲ取リ典物スル者  
常ニ人ノ典物證票ヲ買フ者

新貨物ノ來ル可キヲ證據トシ典物證票ヲ賣買スル者

以上ハ皆十八日ヨリ三月マテノ獄ニ處シ二十六フランクヨリ一千  
フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ

第八章 製造賣買糶賣ノ犯罪

第三百九條 凡ソ製造家僕雇工等已ニ其家ヲ出ル者ト雖モ奸惡ヲ抱

テ製造ノ秘術ヲ他人ニ告ル者ハ三月ヨリ三年マテノ獄ニ處シ五十  
フランクヨリ二千フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ

第三百十條 凡ソ雇直ヲ昂低セントシ或ハ製造ヲ害セントシ暴行脅  
迫等ヲ以テ工作ニ從事スル主僕ヲ妨グル者ハ八日ヨリ三月マテノ  
獄ニ處シ二十六フランクヨリ一千フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ  
若シハ唯此一ヲ科ス可シ

衆人ヲ招募シ工作場若シハ工作主人ノ家傍ニ至リ其主人及ヒ雇人  
ノ自由ヲ害スル者モ同罪トス

第三百十一條 凡ソ奸計ヲ以テ商品、紙幣、國債證票ノ價額ヲ昂低セシ  
ムル者ハ一月ヨリ二年マテノ獄ニ處シ三百フランクヨリ一萬フラ  
ンクマテノ罰金ヲ命ス可シ

第三百十二條 凡ソ各縣城堡府郭等ノ部將縣官及ヒ權官等其管下ノ



地ニ於テ前條ノ法ヲ犯ス者若クハ其犯ニ與ミスル者ハ本刑ノ外尙  
ホ第三十一條一二三ノ奪權ニ處ス可シ

第三百十三條 凡ソ衆ヲ連結シ若クハ暴行脅迫ヲ用ヒ菜穀市場ヲ抄  
掠スル者或ハ強テ廉價ニ賣買セシムル者ハ三月ヨリ二年マテノ獄  
ニ處ス可シ

其首謀挑撥人ハ六月ヨリ三年マテノ獄ニ處シ五年ヨリ十年マテノ  
警察ヲ受ケシム可シ

第三百十四條 凡ソ動靜財産入額動靜産ノ貸付方及ヒ發起人等賣買  
ヲ爲スニ當リ暴行脅迫ヲ用ヒ糶賣入札ノ自由ヲ妨クル者ハ十五日  
ヨリ六月マテノ獄ニ處シ百フランクヨリ三千フランクマテノ罰金  
ヲ命ス可シ

第九章 靜謐ヲ害スル雜犯

第一套 墳墓ノ規則ヲ犯ス

第三百十五條 凡ソ當該官吏ノ允許ヲ得サル地ニ死人ヲ埋葬スル者  
及ヒ埋葬セシムル者埋葬場及ヒ「イニユマシヨンプレシビター」未ダ全  
ク死セサル者ヲ葬ムルヲ云フノ條規ヲ犯ス者ハ八日ヨリ二月マテ  
ノ獄ニ處ス可シ若クハ二十六フランクヨリ三百フランクマテノ罰  
金ヲ命ス可シ

第二套 製禁兵器ノ犯罪

第三百十六條 凡ソ國法及ヒ規則ニ禁スル所ノ兵器ヲ製作シ或ハ賣  
リ或ハ鋪ニ展示シ或ハ分派スル者ハ八日ヨリ六月マテノ獄ニ處ス  
可シ

第三百十七條 凡ソ製禁兵器ヲ所持スル者ハ二十六フランクヨリ二  
百フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ



第三百十八條 凡ソ以上二條ノ犯罪ニ於テハ其兵器ヲ没入ス可シ

第三套 獸類ノ流行病ニ關スル犯罪

第三百十九條 凡ソ官ノ成規ニ準ス可キ獸類傳染病ヲ其主人或ハ其番人直ニ住邑ノ里正ニ告ケサル者若クハ告ル後チ里正ノ答ヲ待タズ外ニ放チ出ス者ハ八日ヨリ二月マテノ獄ニ處シ二十六フランクヨリ二百フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ

第三百二十條 凡ソ官吏ノ命ヲ用ヒス病獸ヲ他ノ獸ニ近カシムル者ハ二月ヨリ六月マテノ獄ニ處シ一百フランクヨリ五百フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ

第三百二十一條 凡ソ前條ノ法ヲ犯シ他ノ獸類ニ其病ヲ傳染セシムル者ハ六月ヨリ三年マテノ獄ニ處シ一百フランクヨリ三千フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ

第六篇 安寧ヲ害スル輕罪

第一章 人身又ハ財産ヲ犯ス結黨

第三百二十二條 凡ソ或ハ財産ヲ犯サントスル結黨ヲ重罪若クハ輕罪トシ其黨已ニ成ル者ハ此法ニ據テ論ス可シ

第三百二十三條 凡ソ結黨死刑及ヒ懲役ニ該ルノ罪ヲ犯サントスルニ於ケル其造意者、首長及ヒ指揮ヲ爲ス者ハ皆ナ監役ニ處ス可シ若シ以上二刑外ノ重罪ヲ犯サントスル結黨ニ於ケル其造意者、首長、指揮者ハ皆ナ二年ヨリ三年マテノ獄ニ處ス可シ

第三百二十四條 凡ソ結黨ニ加ハル者及ヒ情ヲ知テ故サラニ兵器、糧食器械、宿所、逃所及ヒ集會所ヲ給スル者ハ

第一結黨ニ於テハ六月ヨリ五年マテノ獄ニ處ス可シ

第二結黨ニ於テハ二月ヨリ三年マテノ獄ニ處ス可シ



第三結黨ニ於テハ一月ヨリ二年マテノ獄ニ處ス可シ

第三百二十五條 凡ソ第三百二十三條及ヒ三百二十四條ノ犯人ニシテ獄ニ該ル者ハ本刑ノ外尙ホ第三十三條ノ奪權ニ處シ及ヒ五年ヨリ十年マテノ警察ヲ受ケシムルコアリ

第三百二十六條 凡ソ以上結黨中ノ者未タ重輕罪ヲ行ハス又官ノ追捕ヲ待タス自首シ其首長若クハ副役ノ姓名ヲ告クル者ハ放免ス可シ

但シ此ノ如キ者ハ時アリテ警察ヲ受ケシム其期五年ヲ過ク可カラズ

第二章 人身又ハ財産ヲ害セントスル脅迫

第三百二十七條 凡ソ無名若クハ有名ノ書類ヲ以テ人ノ身體或ハ其財産ニ損害ヲ加ヘント要シ殊ニ命令シ劫カスニ死刑若クハ懲役

タル可キヲ以テスル者ハ六月ヨリ五年マテノ獄ニ處シ一百フランシヨリ五百フランマテノ罰金ヲ命ス可シ或ハ契約書ニ強テ調印ニ幾許ノ金員ヲ渡セト命令スル等

若シ其劫カスト雖モ命令スル所ナキ者ハ三月ヨリ二年マテノ獄ニ處シ五十フランシヨリ三百フランマテノ罰金ヲ命ス可シ

第三百二十八條 凡ソ口舌ヲ以テ脅カシ命令スル所アル者ハ二月ヨリ一年マテノ獄ニ處シ二十六フランシヨリ二百フランマテノ罰金ヲ命ス可シ

第三百二十九條 凡ソ形容又ハ譬諭シトヲ以テ人ノ身體若クハ財産ニ損害ヲ加ヘント要シ脅カスニ死刑或ハ懲役タル可キヲ以テスル者ハ八日ヨリ三月マテノ獄ニ處シ二十六フランシヨリ一百フランマテノ罰金ヲ命ス可シ



第三百三十條 凡ソ無名若クハ有名ノ書類ヲ以テ人ノ身體若クハ財產ヲ害セント要シ命令スル所アリテ劫カスニ監役タル可キヲ以テスル者ハ三月ヨリ三年マテノ獄ニ處シ一百フランクヨリ五百フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ

若シ其命令スル所無キ者ハ十五日ヨリ六月マテノ獄ニ處シ二十六「フランク」ヨリ二百「フランク」マテノ罰金ヲ命ス可シ

第三百三十一條 凡ソ第三百二十七條ノ犯罪者ハ本刑ノ外尙ホ第十三條ノ奪權ニ處シ五年ヨリ十年マテノ警察ヲ受ケシムルコトアリ

第三章 脱監越獄

第三百三十二條 凡ソ罪囚逃亡スル有レハ其監守タル者ヲ罰スル左ノ如クス可シ

第三百三十三條 凡ソ輕罪ノ首謀其被告人或ハ軍俘ノ逃亡ヲ覺ラサ

ル者ハ八日ヨリ三月マテノ獄ニ處ス可シ其故サラニ縱ス者ハ六月ヨリ二年マテノ獄ニ處ス可シ

第三百三十四條 凡ソ重罪首謀或ハ其被告人或ハ外國政府へ引渡ス可キ罪囚ノ逃亡ヲ覺ラサル者ハ十五日ヨリ一年マテノ獄ニ處ス可シ其故サラニ縱ス者ハ一年ヨリ五年マテノ獄ニ處ス可シ

第三百三十五條 凡ソ監主ニ非サル外人ニシテ囚獄ニ逃亡ノ便ヲ與フル者ハ第三百三十三條ノ罪囚タレハ十五日ヨリ一年マテノ獄ニ處ス可シ第三百三十四條ノ罪囚タレハ三月ヨリ二年マテノ獄ニ處ス可シ

罪囚ノ尊屬或ハ卑屬ノ親其夫妻離縁スル者ト雖モ兄弟姉妹若クハ同級ノ外戚タル者其罪囚ヲシテ逃亡ノ方法ヲ得セシムル者ハ論スル勿レト同級ノ外戚トハ尊屬夫妻兄弟姉妹等ニテ得タル親戚ナリ



第三百三十六條 凡ソ獄囚強暴脅迫若クハ破獄シテ逃走セントスル者ハ成否ヲ論セス其暴行ニ便スルノ具ヲ得セシムル者ヲ罰スル左ノ如シ

若シ第三百三十三條ノ罪囚タレハ監守ハ二年ヨリ五年マテノ獄ニ處シ外人ハ三月ヨリ二年マテノ獄ニ處ス可シ

第三百三十四條ノ罪囚タレハ監守ハ監役外人ハ六月ヨリ三年マテノ獄ニ處ス可シ

第三百三十七條 凡ソ獄囚強暴脅迫若クハ破獄シテ逃走セントセハ成否ヲ論セス其暴行ニ便スル兇器ヲ獄囚ニ授クル者ヲ罰スル左ノ如シ

第三百三十三條ノ罪囚タレハ監守ハ監役外人ハ二年ヨリ五年マテノ獄ニ處ス可シ

第三百三十四條ノ罪囚タレハ監守ハ十年ヨリ十五年マテノ懲役ニ外人ハ監役ニ處ス可シ

第四章 配所逃亡及ヒ罪人ヲ伏匿セシム

第三百三十八條 凡ソ警察ヲ受ル者第三十五條ノ法ニ違フ有レハ八日ヨリ一年マテノ獄ニ處ス可シ

第三百三十九條 凡ソ重罪ノ首謀已ニ斷決スル者若クハ追捕サル、者ヲ情ヲ知テ陰匿シ又ハ陰匿セシムル者ハ八日ヨリ二年マテノ獄ニ處シニシテ六十日ヨリ五百フランシマテノ罰金ヲ命ス可シ

第三百四十條 凡ソ殺害セラル、者若クハ毆傷ニ因テ死ニ至ル者ノ遺骸ヲ陰匿シ或ハ陰匿セシムル者ハ三月ヨリ二年マテノ獄ニ處シ五十フランシヨリ六百フランシマテノ罰金ヲ命ス可シ

第三百四十一條 凡ソ尊屬卑屬ノ親夫妻(離縁スル者ト雖モ)兄弟姉妹



及ヒ同級ノ戚族ニシテ前條ニ掲載セル人命犯罪ノ首從若クハ毆傷ノ首從ヲ陰匿スル者ハ論スル勿レ

第五章 浮浪乞丐ノ徒靜謐ヲ害スル輕罪

第三百四十二條 凡ソ左ノ犯人ハ皆ナ八日ヨリ一月マテノ獄ニ處ス可シ  
主人ノ許可ヲ待タズシテ物ヲ乞ヒ家屋若クハ其附屬ノ所ニ入ル浮浪乞丐癡疾創傷ヲ伴稱シテ乞丐スル者

第三百四十三條 浮浪乞丐ノ徒行裝ヲ變スル者ハ八日ヨリ二月マテノ獄ニ處ス可シ

第三百四十四條 凡ソ浮浪乞丐ノ徒偽造ノ證書及ヒ路券即チ旅行票ヲ所持スル者兵器ヲ所持スル者鑰鈎其他重輕罪ヲ犯シ盜賊ヲ爲シセルチフイカイ或人ノ家屋ニ入ルニ便スル要具ヲ所持スル者ハ皆ナ三月ヨリ一年

マテノ獄ニ處ス可シ  
第三百四十五條 凡ソ浮浪乞丐ノ徒物ヲ乞フ爲メニ人ノ身體若クハ財產ヲ害セント要シ脅迫スル者ハ一月ヨリ一年マテノ獄ニ處ス可シ

若シ其身體ニ暴舉ヲ加フル者ハ六月ヨリ三年マテノ獄ニ處ス可シ  
第三百四十六條 凡ソ前數條ノ法ヲ犯ス浮浪乞丐ノ徒ハ本刑滿期ノ後尙ホ五年ヨリ十年マテノ警察ヲ受ケシムルコアリ

第三百四十七條 凡ソ浮浪トハ居家無ク恒産無キ者ヲ云フ  
第七篇 民生及ヒ風俗ニ關スル輕重罪

第一章 墮胎

第三百四十八條 凡ソ食物、飲料、藥品若クハ暴行其他ノ方法ヲ以テ爲

スチ欲セサル婦ヲ強テ墮胎セシムル者ハ監役ニ處ス可シ



若シ事成ラサル者ハ第五十二條ニ循テ論ス可シ

第三百四十九條 凡ソ墮胎セント欲スルニ非スシテ縱ニ暴チ行ヒ因

テ墮胎ニ致ス者ハ三月ヨリ二年マテノ獄ニ處シ二十六フランクヨ

リ三百フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ

若シ謀テ暴チ加ヘ若クハ妊娠スルヲ知テ暴チ加ヘ因テ墮胎ニ致ス

者ハ六月ヨリ三年マテノ獄ニ處シ五十フランクヨリ五百フランク

マテノ罰金ヲ命ス可シ

第三百五十條 凡ソ婦ノ承諾スルニ因リ食物飲料藥品及ヒ諸般ノ方

法ヲ以テ墮胎セシムル者ハ二年ヨリ五年マテノ獄ニ處シ一百フラ

ンクヨリ五百フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ

第三百五十一條 凡ソ承諾シテ墮胎スル者ハ二年ヨリ五年マテノ獄

ニ處シ一百フランクヨリ五百フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ

と

第三百五十二條 凡ソ墮胎シ其婦ヲ死ニ致ス者ハ其方法ヲ行フ者或

ハ情ヲ知テ指示スル者共ニ其婦ノ承諾スルニ因ル者ハ監役其承諾

セサルニ強ユル者ハ十年ヨリ十五年マテノ懲役ニ處ス可シ

第三百五十三條 凡ソ第三百四十八條三百五十條及ヒ三百五十二條

ノ犯罪内外科醫、産醫、産婆、軍醫、藥舗等タレハ罪獄ニ該ルハ監役、監役

ニ該ルハ十年ヨリ十五年マテノ懲役十年ヨリ十五年マテノ懲役ニ

該ルハ十五年ヨリ二十年マテノ懲役ニ處ス可シ

第二章 棄兒放兒

第三百五十四條 凡ソ生兒ヲ棄ル者棄兒若シハ七歲未滿ノ兒ヲ棄闕

ナラサル地ニ放遺スル者及ヒ放棄セシムル者ハ皆十一月ヨリ一年

マテノ獄ニ處シ二十フランクヨリ六百フランクマテノ罰金ヲ命ス

可シ



第三百五十五條 凡ソ兒童ノ依託ヲ受ル者及ヒ其嫡庶父母前條ノ法ヲ犯ス者ハ三月ヨリ二年マテノ獄ニ處シ二十六フランクヨリ二百フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ

第三百五十六條 凡ソ兒童ヲ放遺スルニ於ケル其兒童若シ折傷シ或ハ癱疾トナル者ハ

第三百五十四條ノ犯ニ於テハ六月ヨリ二年マテノ獄ニ處シ二十六フランクヨリ三百フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ

第三百五十五條ノ犯ニ於テハ一年ヨリ三年マテノ獄ニ處シ五十フランクヨリ二百フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ

第三百五十七條 凡ソ放遺ニ因テ死ニ致ス者ハ

第三百五十四條ノ犯ニ於テハ一年ヨリ三年マテノ獄ニ處シ五十フランクヨリ三百フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ

第三百五十五條ノ犯ニ於テハ二年ヨリ五年マテノ獄ニ處シ五十フランクヨリ三百フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ

第三百五十八條 凡ソ七歳未滿ノ兒ヲ蹇闕ノ地ニ放遺シ若クハ放遺

セシムル者ハ六月ヨリ三年マテノ獄ニ處シ五十フランクヨリ三百フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ

第三百五十九條 凡ソ父母庶父母若クハ兒ノ依託ヲ受ル者其兒ヲ蹇

闕ノ地ニ放遺スル者ハ一年ヨリ五年マテノ獄ニ處シ一百フランクヨリ五百フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ

第三百六十條 凡ソ前二條ノ放遺ニ因リ其兒折傷或ハ癱疾トナル者ハ監役ニ處ス可シ

若シ死ニ致ス者ハ十年ヨリ十五年マテノ懲役ニ處ス可シ

第三章 民生證據ヲ害スル輕重罪



第三百六十一條 凡ソ出産ニ會シ民法第五十五條五十六條及ヒ五十七條ノ法ニ循ヒ上告セサル者ハ八日ヨリ三月マテノ獄ニ處シ二十  
六「フランソ」ヨリ二百「フランソ」マテノ罰金ヲ命ス可ク若クハ唯此中  
ノ一刑ニ處ス可シ

第三百六十二條 凡ソ生兒ヲ認メ民法第五十八條ノ法ニ循ヒ三日内  
ニ之ヲ民生官吏ニ送致セサル者モ罪同シ

若シ生兒ノ生育等ヲ引受ケ其由ヲ(生兒ヲ認メタルノ事ヲ)其邑ノ官  
ニ告知スル者ハ坐セス

第三百六十三條 凡ソ生兒ヲ失フ者(殺スヲ云フ)他人ノ子ト交換スル  
者或ハ某ノ子某ノ婦ノ子ト偽リ定ムル者等ハ皆ナ監役ニ處ス可シ  
茲通ニ因テ孕ミ其夫ニ隱シ他所ニ至リ姓名ヲ變シ出産ノ後其兒ヲ  
棄テ家ニ歸リ或ハ他人ノ子ヲ盜ミ已レノ子ト爲ス類又ハ遺物相續  
等ノ爲メ子ヲキ婦他人ノ子ヲ取テ已レノ子トスル類又  
ハ兒ノ依託ヲ受ケ之ヲ其父母ニ返ス時他ノ兒ヲ返ス類

以上ノ犯罪ニカチ加ヘ事已ニ成ル者ハ同罪トス

第三百六十四條 凡ソ七歳未満ノ兒ヲ誘拐スル者若クハ誘拐セシム  
ル者ハ和誘スル者ト雖モ監役ニ處ス可シ

第三百六十五條 凡ソ七歳未満ノ兒ヲ藏匿シ若クハ藏匿セシムル者  
ハ一年ヨリ五年マテノ獄ニ處シ五十「フランソ」ヨリ五百「フランソ」マ  
テノ罰金ヲ命ス可シ

第三百六十六條 凡ソ兒ノ養育ニ任スル者其兒ヲ七歳未満ナルニ貧  
院ニ入レ及ヒ入レシムル者ハ一月ヨリ六月マテノ獄ニ處シ二十六  
「フランソ」ヨリ一百「フランソ」マテノ罰金ヲ命ス可シ

若シ自費ヲ以テ兒ノ養育ヲ爲ス義務ナキ者ニシテ他ニ其費ヲ仰ク  
所ナキ者ハ坐セス

別殊ノ法



第三百六十七條 凡ソ七歳未満兒ノ養育ヲ任シ兒ノ本主ヨリ求需スルヲ肯セサル者ハ八日ヨリ一年マテノ獄ニ處シ二十六フランクヨリ一百フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ

第四章 幼者ヲ誘拐ス

第三百六十八條 凡ソ強暴詐計若クハ恐喝ニ因テ幼者ヲ誘拐スル者或ハ誘拐セシムル者ハ一年ヨリ五年マテノ獄ニ處シ五十フランクヨリ五百フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ尙ホ第三十三條ノ奪權ニ處スルコトアリ

第三百六十九條 凡ソ前條ノ如ク十六歳未満ノ女子ヲ誘拐スル者ハ監役ニ處ス可シ

第三百七十條 凡ソ十六歳未満ノ女子、父母、後見人等ノ權下ニ在ル者ヲ和誘スル者或ハ和誘セシムル者ハ其女子自カラ誘ニ從フト雖モ

拐略人成年ナレハ二年ヨリ五年マテノ獄ニ處シ五十フランクヨリ五百フランクマテノ罰金ヲ命シ尙ホ第三十三條ノ奪權ニ處スルコトアリ

若シ誘拐者幼年ナルハ三月ヨリ一年マテノ獄ニ處シ五十フランクヨリ三百フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ

第三百七十一條 凡ソ誘拐シテ其女子ヲ娶ル者及ヒ其誘拐ニ力ヲ加フル者ハ皆テ婚姻廢止ヲ判決スル後ニ非サレハ裁判ヲ爲ス可カラ

第五章 犯姦

第三百七十二條 凡ソ暴行恐喝ヲ用ヒスシテ十四歳未満ノ男女ヲ姦スル犯及ヒ其醜助ヲ得テ姦スル犯ハ一年ヨリ五年マテノ獄ニ處ス可シ



若シ十一歳未滿ノ男女ナル者ハ監役ニ處ス可シ

第三百七十三條 凡ソ強暴恐喝ヲ用ヒテ姦ヲ犯ス者ハ六月ヨリ五年マテノ獄ニ處ス可シ

若シ十四歳未滿ノ男女ヲ犯ス者ハ監役ニ處ス可シ

第三百七十四條 凡ソ犯姦トハ已ニ行フ者ヲ云ヒ其成否ヲ論セス

第三百七十五條 凡ソ強暴恐喝詐計ヲ用ヒ或ハ疾病ニ因テ本心ヲ失

フ者若クハ暫時智覺ヲ失フ者若クハ他ノ方畧ヲ用ヒテ混迷セシメ強姦スル者ハ監役ニ處ス可シ

若シ十四歳未滿ノ男女ヲ姦スル者ハ十年ヨリ十五年マテノ懲役ニ處ス可シ

第三百七十六條 凡ソ強姦ニ因テ死ニ致ス者ハ十五年ヨリ二十年マ

テノ懲役ニ處ス可シ

第三百七十七條 凡ソ

若シ其尊屬ノ親ニシテ卑屬ノ親ヲ犯ス者

若シ其尊長ニシテ犯ス者

若シ其教師、婢僕(雇賃ヲ給スル者ヲ云フ)或ハ其尊屬尊長ノ婢僕ニシ

テ犯ス者

若シ内外官吏、教僧等其威權ヲ用ヒテ犯ス者或ハ内外科醫師、産醫、軍

醫等其託セラル、者ヲ犯ス者

以上ノ者若シ第三百七十三條、第三百七十五條、第三百七十六條ノ犯姦ヲ

ルニシテ他人ノ加助ニ因ル者ハ皆テ第二百六十六條ニ據テ加等ス

可シ

第三百七十八條 凡ソ此五章ニ舉ル所ノ諸犯罪人ハ本刑ノ外尙ホ第

三十一條一三四五ノ奪權ニ處ス可シ



若シ其父母ニシテ其子ヲ犯ス者ハ民法第一卷第九篇ニ掲載スル父母ノ權利ヲ失フ可シ

第六章 少年ノ淫事

第三百七十九條 凡ソ常ニ幼者ノ色情ヲ鼓舞幫助シ其十四歳以上ノ

幼者ニ男女放蕩淫欲ヲ飽カシメ風俗ヲ亂ス者ハ三月ヨリ二年マテノ

獄ニ處シ若シ幼者十四歳未滿ノ者ノ淫行ヲ爲サシムル者ハ二年ヨ

リ五年マテノ同罪トス

第三百八十條 凡ソ上條ノ犯十一歳未滿ノ者ニ關スル者ハ監役ニ處

ス可シ

其特ニ手ヲ試ムルノミノ者ハ無罪

第三百八十一條 凡ソ

幼者ノ尊屬ノ親

其尊長ノ者

其教師、婢僕或ハ尊屬、尊長、教師等ノ婢僕

官吏或ハ教僧ニシテ前條ノ犯ヲ爲ス者ハ第二百六十六條ニ據テ加

等ス可シ

第三百八十二條 凡ソ此章ノ諸犯罪ハ本刑ノ外尙ホ五十「フランク」ヨ

リ一千「フランク」マテノ罰金ヲ命シ及ヒ第三十一條一三四五ノ奪權

ニ處ス可シ

若シ幼者ノ父母ニシテ犯ス者ハ民法第一卷第九篇ノ父母タルノ權

利ヲ剝奪ス可シ

此等ノ犯罪ハ尙ホ五年ヨリ十年マテノ警察ニ處スルコトアリ

第七章 風俗ヲ害スル犯罪

第三百八十三條 凡ソ風俗ヲ害スル書畫、歌謠等ヲ販賣分派展示スル



者ハ其印刷書寫ヲ論セス八日ヨリ六月マテノ獄ニ處シ二十六フラン  
ソクヨリ五百フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ

第三百八十四條 凡ソ前條ノ犯ニ於テ書畫等ノ著作人タル者印刷師  
及ヒ他ノ方法ヲ用ヒテ再寫スルハ皆十一月ヨリ一年マテノ獄ニ處  
シ五十フランクヨリ一千フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ

第三百八十五條 凡ソ衆目ヲ憚カラス淫事ヲ爲ス者ハ八日ヨリ一年  
マテノ獄ニ處シ二十六フランクヨリ五百フランクマテノ罰金ヲ命  
ス可シ(裸體ニシテ街路ヲ行ク等モ此類ナリ)

第三百八十六條 凡ソ此章ノ諸犯罪ハ尙ホ第三十一條一三四及ヒ五  
ノ奪權ニ處スルコアリ

第八章 姦婦姦夫及ヒ一人雙婚ヲ爲ス

第三百八十七條 凡ソ姦婦罪ニ伏スル者ハ三月ヨリ二年マテノ獄ニ

處ス可シ

若シ其本夫復娶シ其罪ヲ赦スヲ請フ者ハ刑ヲ止ム

第三百八十八條 凡ソ姦婦附從ノ罪ハ前條ニ據テ處斷ス可シ

姦婦ノ證トス可キ者ハ其所犯ノ臨時外ハ唯其書翰及ヒ他ノ書跡ヲ  
フランクナリ

以テ證ス可シ

第三百八十九條 凡ソ夫其家ニ外婦ヲ蓄フル罪ニ伏スル者ハ一月ヨ  
リ一年マテノ獄ニ處ス可シ

若シ其婦放免ヲ請フ有レハ許ス可シ

第三百九十條 凡ソ姦婦姦夫ハ其妻ノ出訴スルニ非サレハ問ハス

第三百九十一條 凡ソ已ニ許嫁セルニシテ未タ其約ヲ廢セズ更ニ他  
ニ許嫁スル者ハ監役ニ處ス可シ

第八篇 人ヲ害スル罪



第一章 構意殺傷

第三百九十二條 凡ソ構意殺傷セント要シ人ヲ殺傷スル者ハ其殺傷  
スル所胸中豫定ノ人ナルト否トヲ論セス又他ノ情狀事故アルト其  
誤殺傷ナルトヲ論セス總テ構意殺傷テ以テ論ス可シ

第一套 人命犯區別

第三百九十三條 凡ソ故意人ヲ殺ス者ヲ故殺ト云フ即チ終身懲役ト  
アンタシヤン ミコル

ス

第三百九十四條 凡ソ豫謀人ヲ殺ス者ヲ謀殺ト云フ即チ死刑トス  
プレメグシヨ

第三百九十五條 凡ソ父母尊屬親及ヒ庶父母ヲ故殺スルヲ弑親ト云  
ハツク

フ即チ死刑トス

第三百九十六條 凡ソ兒生ル、ノ際若クハ生ル、後チ直ニ殺ス者ヲ

殺兒ト云フ

殺兒ハ事情ニ因リ故殺ヲ以テ論シ若クハ謀殺ヲ以テ論ス可シ

但シ不正ノ兒イレシチム子子類ノヲ殺ス母ハ十年ヨリ十五年マテノ懲役ニ處ス

可シ

不正ノ兒ト雖モ謀殺スル母ハ十五年ヨリ二十年マテノ懲役ニ處ス

可シ

第三百九十七條 凡ソ物質單品、重品等諸種ノ方劑ヲ用ヒ飲食セシメ

殺ス者ハ其即死ト時ヲ經テ死スルトヲ論セス毒殺ト云フ即チ死刑

トス

第二套 故殺ニ非スシテ構意ヲ以テ殺ニ致シ及ヒ構意傷

第三百九十八條 凡ソ構意ヲ以テ毆傷スル者ハ八日ヨリ六月マテノ

獄ニ處シ二十六フランクヨリ一百フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ

若クハ唯此一刑ノミヲ科ス可シ



其謀毆傷ニ屬スル者ハ一月ヨリ一年マテノ獄ニ處シ五十フランク

ヨリ二百フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ

第三百九十九條 凡ソ毆傷ニ因テ疾病若クハ動作ヲ害スルニ致ス者

ハ二月ヨリ二年マテノ獄ニ處シ五十フランクヨリ二百フランクマ

テノ罰金ヲ命ス可シ

其謀毆傷ニ屬スル者ハ六月ヨリ三年マテノ獄ニ處シ一百フランク

ヨリ五百フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ

第四百條 凡ソ毆傷シ因テ命ニ關スル篤疾若クハ終身癱疾若クハ身

體ノ一部ヲ損ハシメ若クハ支體ヲ折傷スル者ハ二年ヨリ五年マテ

ノ獄ニ處シ二百フランクヨリ五百フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ

其謀毆傷ニ屬スル者ハ監役ニ處ス可シ

第四百一條 凡ソ殺サント欲スルニ非スシテ毆傷シ因テ死ニ致ス者

ち

ハ監役ニ處ス可シ

其謀毆傷シ因テ死ニ致ス者ハ十年ヨリ十五年マテノ懲役ニ處ス可

シ

第四百二條 凡ソ殺サント欲スルニ非サル構意毒殺ス可キ物質若ク

ハ死ニ至ラサルモ篤疾ヲ起ス可キ物質ヲ與ヘ因テ疾病若クハ大ニ

健康ヲ害スルニ致ス者ハ三月ヨリ五年マテノ獄ニ處シ五十フラン

クヨリ五百フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ

第四百三條 凡ソ其物質命ニ關スルノ疾若クハ終身癱疾ノ原由トナ

リ若クハ身體ノ一部ヲ失ハシムルニ致ス者ハ監役ニ處ス可シ

第四百四條 凡ソ殺サント欲セス前條ノ物質ヲ與ヘ因テ死ニ致ス者

ハ十五年ヨリ二十年マテノ懲役ニ處ス可シ

第四百五條 凡ソ殺サント欲セス第四百二條ノ物質ヲ試ムル者ハ一



月ヨリ三年マテノ獄ニ處シ二十六フランクヨリ三百フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ

第四百六條 凡ソ構意ヲ以テ鐵路ヲ壞リ或ハ鐵線ヲ絶チ或ハ線上ニ阻障物ヲ置ク等及ヒ其他ノ方略ヲ用ヒテ蒸氣車ヲ止メ若クハ覆ヘス者ハ監役ニ處ス可シ

第四百七條 凡ソ前條ノ犯罪ニ因テ人ヲ第三百九十九條ノ折傷ニ致ス者ハ十年ヨリ十五年マテノ懲役ニ處ス可ク若シ第四百條ノ折傷ニ致ス者ハ十五年ヨリ二十年マテノ懲役ニ處ス可シ

第四百八條 凡ソ因テ人ヲ死ニ致ス者ハ終身懲役ニ處ス可シ  
第四百九條 凡ソ第三百九十九條及ヒ四百一條ノ犯罪獄ニ該ル者ハ猶ホ五年ヨリ十年マテノ警察ニ處スルコアリ

第四百十條 凡ソ第三百九十八條ヨリ第四百五條ニ至ル犯罪若シ其

父母、庶父母、養父母或ハ其他尊屬ノ嫡親ニ於ケル者ハ第二百六十六條ニ循ヒ加等ス

第三套 殺、毆、傷ノ宥恕ス可キ者

第四百十一條 凡ソ強暴ノ所行ニ逢ヒ身命危キニ至リ己ムヲ得ス人命若シハ毆傷ヲ犯ス者ハ宥恕ス可シ

第四百十二條 凡ソ白日ニ牆壁ヲ越ヘ或ハ住屋居室及ヒ其附屬所ノ戸ヲ破壞シ侵入スル者ヲ其主人殺、毆、傷シ其狀ヲ檢スルニ侵入者面ノアタリ其主人ヲ害セントスル勢ヒ有ルカ或ハ防禦ニ抗拒セントスル勢ヒ有ルノ證ヲ得ル者ハ寬恕ス可シ

第四百十三條 凡ソ夫及ヒ婦タル者ニシテ姦夫若シハ姦婦ヲ其犯姦所ニ殺、毆、傷スル者ハ寬恕ス可シ

第四百十四條 凡ソ情狀顯跡アリテ宥恕律ニ據テ論ス可キ者



本刑死、終身懲役ニ該ルハ一年ヨリ五年マテノ獄ニ處シ一百フラン  
シヨリ五百フランシマテノ罰金ヲ命ス可シ

他ノ重罪ニ屬スル者ハ皆十六月ヨリ二年マテノ獄ニ處シ五十フラ  
ンシヨリ五百フランシマテノ罰金ヲ命ス可シ

輕罪ニ屬スルハ皆十八日ヨリ三月マテノ獄ニ處シ二十六フランシ  
ヨリ一百フランシマテノ罰金ヲ命ス可シ

第四百十五條 凡ソ尊屬ノ嫡親及ヒ庶父母ヲ殺、毆、傷スル者ハ本套中  
ノ寬恕律ニ據テ論スルヲ得ス

第四套 殺、毆、傷ノ無罪

第四百十六條 凡ソ己レノ生命若クハ他人ノ生命危急ニ迫リ之ヲ防  
クニ當リ殺、毆、傷スル者ハ無罪トス

第四百十七條 凡ソ夜中牆壁ヲ越へ若クハ居家住室及ヒ其附屬窓戶

ヲ壞破シ侵入スル者其主人ヲ害スルモ計ル可カラサル情實アルカ  
又ハ之ヲ防禦シ抗拒スル勢ニ因テ殺、毆、傷スル者ト及ヒ生命ヲ害セ  
ントスル強盜暴奪ヲ防禦スルニ因テ殺、毆、傷スル者トヲ防殺、毆、傷ト  
云フ

第二章 過失殺傷

第四百十八條 凡ソ過失ニ因リ人ヲ殺傷スル者ハ過失殺傷ヲ以テ論  
シ罪ヲ科ス可シ

第四百十九條 凡ソ意外ニ出テ人ヲ殺ス者ハ三月ヨリ二年マテノ獄  
ニ處シ五十フランシヨリ一千フランシマテノ罰金ヲ命ス可シ

第四百二十條 凡ソ意外ニ出テ人ヲ毆傷スル者ハ八日ヨリ二月マテ  
ノ獄ニ處シ五十フランシヨリ五百フランシマテノ罰金ヲ命ス可シ

若クハ此一刑ニ處ス可シ



第四百二十一條 凡ソ死若クハ篤疾ヲ起ス可キ物質ヲ用ヒ意外ニ出  
テ人ヲ疾病ニ致シ若クハ動作ノ害ヲ生スル者ハ八日ヨリ一年マテ  
ノ獄ニ處シ二十六フランクヨリ二百フランクマテノ罰金ヲ命ス可  
ク若クハ此一刑ニ處ス可シ

第四百二十二條 凡ソ意外ニ出テ鐵路ニ障碍ヲ爲シ人ヲ危難ニ致ス  
者ハ八日ヨリ二月マテノ獄ニ處シ二十六フランクヨリ二百フラン  
クマテノ罰金ヲ命ス可ク若クハ此一刑ニ處ス可シ

若シ其人ヲ傷スル者ハ一月ヨリ三年マテノ獄ニ處シ五十フランク  
ヨリ三百フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ

若シ其人ヲ死ニ致ス者ハ六月ヨリ五年マテノ獄ニ處シ一百フラン  
クヨリ六百フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ

第三章 決闘ハケン

第四百二十三條 凡ソ決闘セント挑ム者ハ十五日ヨリ三月マテノ獄  
ニ處シ一百フランクヨリ五百フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ

第四百二十四條 凡ソ決闘ヲ諾セサル者ヲ衆ニ誹謗スル者ハ罪前條  
ニ同シ

第四百二十五條 凡ソ人ニ失敬ヲ加ヘ因テ決闘ヲ乞フニ致ス者ハ一  
月ヨリ六月マテノ獄ニ處シ一百フランクヨリ一千フランクマテノ  
罰金ヲ命ス可シ

第四百二十六條 凡ソ兵器ヲ持シ決闘ニ臨ムト雖モ其殺傷セサル者  
ハ一月ヨリ六月マテノ獄ニ處シ二百フランクヨリ一千フランクマ  
テノ罰金ヲ命ス可シ

第四百二十七條 凡ソ決闘ヲ爲シ傷ヲ被ラシムル者ハ二月ヨリ一年



マテノ獄ニ處シ三百フランクヨリ一千五百フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ

第四百二十八條 凡ソ鬪傷シ因テ疾病若クハ動作ヲ害スルニ致ス者ハ三月ヨリ二年マテノ獄ニ處シ五百フランクヨリ二千フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ

第四百二十九條 凡ソ鬪傷シ因テ命ニ關スル篤疾若クハ終身癱疾ニ致シ若クハ機器ヲ失ハシメ若クハ四支ヲ折ル者ハ六月ヨリ三年マテノ獄ニ處シ一千フランクヨリ三千フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ

第四百三十條 凡ソ決闘シ死ニ致ス者ハ一年ヨリ五年マテノ獄ニ處シ二千フランクヨリ一萬フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ

第四百三十一條 凡ソ方畧ヲ用ヒ決闘ニ誘導スル者ハ其決闘者ト同

罪トス

若シ誘導スト雖モ決闘ニ至ラシメサル者ハ一月ヨリ一年マテノ獄ニ處シ一百フランクヨリ一千フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ

第四百三十二條 凡ソ第四百二十七條四百二十八條四百二十九條及ヒ四百三十條ノ決闘ニ會シ證據人ト爲ル者ハ一月ヨリ一年マテノ獄ニ處シ一百フランクヨリ一千フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ

第四百三十三條 凡ソ第四百二十三條以下ノ法ヲ犯ス者ニシテ第五十九條ノ期ヲ過キス更ニ決闘律ヲ犯ス者ハ以上ノ數條ニ據リ其最モ重キニ處ス可シ若クハ其最モ重キヲ倍科スルコアリ

第四章 常人各民自主ノ權ヲ犯シ及ヒ人ノ居宅ヲ犯ス

第四百三十四條 凡ソ官吏ノ命アルコト非ス若クハ國法ノ許ス所ニ非スシテ人ヲ捕縛繫獄シ若クハ捕縛繫獄セシムル者ハ三月ヨリ二年



マテノ獄ニ處シ二十六フランクヨリ二百フランクマテノ罰金ヲ命  
ス可シ

第四百三十五條 凡ソ不法ノ拘執ヲ爲シ十日ヲ過クル者ハ六月ヨリ  
三年マテノ獄ニ處シ五十フランクヨリ三百フランクマテノ罰金ヲ  
命ス可シ

第四百三十六條 凡ソ不法ノ拘執ヲ爲シ一月ヲ過クル者ハ一年ヨリ  
五年マテノ獄ニ處シ一百フランクヨリ五百フランクマテノ罰金ヲ  
命ス可シ

第四百三十七條 凡ソ官命ヲ詐稱シ官服ヲ借着シ官吏ノ姓名ヲ僞リ  
或ハ迫ルニ死ヲ以テシテ人ヲ拘執スル者ハ監役ニ處ス可シ

第四百三十八條 凡ソ人ヲ拘執シ拷打スル者ハ十年ヨリ十五年マテ  
ノ懲役ニ處ス可シ

若シ拷打シ因テ篤疾終身癱疾機器損失四支折傷等ニ致ス者ハ十五  
年ヨリ二十年マテノ懲役ニ處ス可シ

若シ因テ死ニ致ス者ハ終身懲役ニ處ス可シ

第四百三十九條 凡ソ官命ニ非ス國法ノ許ス所ニ非スシテ家主ノ承  
諾ヲ待タス恐喝若クハ暴行若クハ墻戸ヲ破壊超越シ或ハ僞鍵ヲ以  
テ常人ノ居家住屋及ヒ其附屬ノ所ニ入ル者ハ十五日ヨリ二年マテ  
ノ獄ニ處シ二十六フランクヨリ三百フランクマテノ罰金ヲ命ス可  
シ

第四百四十條 凡ソ官命ヲ僞リ官服ヲ着シ官吏ノ姓名ヲ詐稱シ或ハ  
夜間ノ所行二人以上ノ所行兇器ヲ持スル所行ノ三事ヲ兼テ前條ノ  
罪ヲ犯ス者ハ六月ヨリ五年マテノ獄ニ處シ一百フランクヨリ五百  
フランクマテノ罰金ヲ命シ且ツ第三十三條ノ奪權ニ處シ五年ヨリ



十年マテノ警察ヲ受ケシムルコアリ

第四百四十一條 凡ソ第四百四十條ノ犯罪ヲ爲サント試ムル者ハ一月ヨリ一年マテノ獄ニ處シ五十フランクヨリ三百フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ

第四百四十二條 凡ソ所有主及ヒ税戶居住スル者ノ承諾ヲ請ハス

第四百三十九條ニ枚擧スル家屋等ニ入り夜間人ニ認メラル者ハ十五日ヨリ二年マテノ獄ニ處シ二十六フランクヨリ三百フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ

第五章 人ノ名譽ヲ害ス

第四百四十三條 凡ソ左條ニ録示スル如ク事ノ定狀ヲ稱シ人ヲ罔ヒ聲譽ヲ失フニ致スニシテ法律之カ證ヲ爲スヲ許シ其確證無キ者ハ

讒告ヲ以テ論シ又法律之カ證ヲ爲スヲ許ス可カラサル者ハカロムニ誣罔チソフアンシヨシヲ

以テ論ス可シ誣告ニ二種アリ一ハ告ケル所ノ事跡ヲ具シ證スルヲ許ス者是ナリ一ハ其告ケル所ノ事跡ヲ證スルヲ許サラスハ姦婦ヲ告ケル等其夫ニ非サレハ之カ證ヲ爲スヲ許ス可カラサル者是ナリ

第四百四十四條 凡ソ左ノ犯者ハ八日ヨリ一年マテノ獄ニ處シ二十

六フランクヨリ二百フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ

集會ノ席若クハ衆人中ニ毀ル者

假令ヒ公所ニ非サルモ衆人集合ノ地ニ於テ毀ル者

其他何レノ地タルヲ問ハス毀ラル者及ヒ目撃セル者アル所ニテ

毀ル者

印書寫書或ハ警諭圖書類ヲ販賣若クハ分配シ或ハ鋪ニ展示シ非議

スル者

假令ヒ寫書ヲ公布セサルモ數人ニ報シ非議スル者

第四百四十五條 凡ソ左ノ犯者ハ皆ナ十五日ヨリ六月マテノ獄ニ處



シ五十フランクヨリ一千フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ

文書ヲ以テ人ヲ官ニ讒訴スル者

文書ヲ以テ人ヲ其附屬ノ長ニ讒告スル者

第四百四十六條

凡ソ諸會院

議院會社等總テ公事ニ屬スル者ヲ云フ

ヲ讒告シ若クハ誣

罔スル者ハ人ヲ讒告誣罔スル者ト同罪トス

第四百四十七條

凡ソ諸官吏及ヒ會院等ヲ其公事公務ヲ舉ケテ讒告

スル罪ニ坐スル者ハ尋常ノ法ニ據テ其事ノ確證ヲ立ツルヲ許シ又

讒告ヲ被ル者モ其事ノ否ナルヲ證スルヲ許ス可シ

若シ私事ヲ以テ讒告スル者ハ唯、裁判及ヒ官ノ處置ニ依テ證スルヲ

得ルノミ他ノ狀ヲ具スルヲ許サス

若シ其讒告スル所官ヨリ搜索ス可ク未タ確證ヲ得サル事タレハ官

ノ裁決ヲ爲ス迄讒告ノ犯ヲ問ハス

第四百四十八條

凡ソ第四百四十四條ニ掲載スル場合ニ於テ行事書

面、圖畫、警諭ヲ以テ人ヲ誹謗スル者ハ八日ヨリ二月マテノ獄ニ處シ

二十六フランクヨリ五百フランクマテノ罰金ヲ命ス可ク或ハ唯、此

一刑ヲ科ス可シ第四百四十四條ハ讒訴誣罔ヲ云フ此條ハ唯、失敬ニ過キス

第四百四十九條

凡ソ人ヲ誣罔スルニ其實事確證アリト雖モ公私ノ

益ヲ目的トシ誣罔スルニ非スシテ唯、其人ヲ惡ムニ因ル者ハ八日ヨ

リ二月マテノ獄ニ處シ二十六フランクヨリ四百フランクマテノ罰

金ヲ命ス可ク或ハ此一刑ヲ科ス可シ

第四百五十條

凡ソ本章ニ載ル輕罪中讒訴ヲ除クノ外ハ唯、其誣罔讒

告ヲ被ル者ノ訴フルヲ待テ刑ニ處ス可シ

若シ讒告誣罔ヲ被ル者之ヲ訴ヘ其否ヲ證セント欲シ果サスシテ死

スル歟若クハ已ニ死セル人ヲ讒誣スル時ハ死者ノ夫妻或ハ卑屬ノ



親第三等ニ至ル迄ノ者ノ訴フルニ非サレハ讒者ヲ糾問スルヲ得  
ス

第四百五十一條 凡ソ讒誣ニ坐スル者其事ニ關スル寫書、印書、圖書、譬  
諭等ノ著作人ニ非サルヲ辯シ唯、自國若シハ外國ノ印刷ヲ再寫スル  
ヲ以テ口實トシ罪ヲ免カル、ヲ得ス

第四百五十二條 凡ソ裁判所ニ於テ原告被告互ニ理ヲ争ヒ或ハ詞章  
ヲ作り或ハ證スルニ文書ヲ以テシ讒誣ニ涉ル者ハ律ニ據テ刑ヲ科  
スルヲ得ス

然レモ或ハ原被一方ノ願ニ依リ裁判官自カラ其讒誣ノ書類ヲ禁シ  
得可シ

尙ホ此ノ如キ場合ニ於テハ裁判官タル者公官及ヒ代理人ヲ呵叱シ  
若シハ責督セシメ得可シ

別殊ノ法

第四百五十三條 凡ソ墓或ハ棺ヲ侵ス者ハ一月ヨリ一年マテノ獄ニ  
處シ二十六フランクヨリ二百フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ

第六章 人ヲ害スル雜犯

第四百五十四條 凡ソ賣品、飲食料ニ人ヲ殺ス可キ物質或ハ人ノ篤疾  
ヲ起ス可キ物質ヲ調和スル者及ヒ調和セシムル者ハ六月ヨリ五年  
マテノ獄ニ處シ二百フランクヨリ二千フランクマテノ罰金ヲ命ス  
可シ

第四百五十五條 凡ソ左ノ犯罪ハ罪前條ニ同シ

前條ニ載ル毒物ヲ調和セル飲食料ヲ知テ之ヲ賣ル者之ヲ鋪ニ展肆  
スル者

飲食料ヲ變質スルノ用ニ充ヌヲ知リ毒質ノ物品ヲ賣ル者



第四百五十六條 凡ソ賣品飲食料ノ毒質ヲ含メル物タルヲ知テ之ヲ  
鋪店倉庫ニ貯フル者ハ三月ヨリ三年マテノ獄ニ處シ一百フランク  
ヨリ一千フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ

第四百五十七條 凡ソ變質飲食料ハ之ヲ没入シ滅却ス可シ  
其商價免狀ハ之ヲ取上ケ受刑在中ハ再ヒ之ヲ與フ可カラス  
尙ホ第三十三條ノ奪權ヲ科スルコアル可シ

裁判所ノ命ニ依テ其罪案ヲ裁判所ノ欲スル場所ニ揭示セシメ又其  
全文若クハ概略ヲ裁判所ノ欲スル新聞紙ニ載セシム但シ揭示及ヒ  
新聞紙記載ノ費ハ皆テ犯人ニ之ヲ科ス可シ

第四百五十八條 凡ソ内外科醫師軍醫藥肆産婆及ヒ其他ノ者其職業  
若クハ其位地ニ居ルヲ以テ人ノ陰事ヲ知リ得テ之ヲ他人ニ告ル者  
ハ八日ヨリ六月マテノ獄ニ處シ一百フランクヨリ五百フランクマ

テノ罰金ヲ命ス可シ但シ裁判所ニ證據ヲ爲シ或ハ法律ニ據リ之ヲ  
告ル者ハ坐セス

第四百五十九條 凡ソ典鋪ノ主人及ヒ其管店人等警保官及ヒ裁判所  
ヲ除ク外ニ典物者ノ姓名ヲ告ルモ前條ト同罪トス

第四百六十條 凡ソ郵便局ニ附スル書翰ヲ棄テ或ハ之ヲ披キ書中ノ  
事ヲ窺フ者ハ八日ヨリ一月マテノ獄ニ處シ二十六フランクヨリ二  
百フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ或ハ此一ヲ科ス可シ但シ郵便及  
ヒ傳信局掛リノ官員ニシテ犯ス者ハ各其本律ニ據テ論シ罪ヲ科ス  
可シ

第九篇 財産ヲ犯ス輕重罪

第一章 竊盜及ヒ強奪

第四百六十一條 凡ソ詐謀ヲ用ヒ己レノ有ニ非サル物ヲ取テ盜ト云



フ

第四百六十二條 凡ソ夫妻相盜ニ或ハ夫其亡妻ノ物ヲ盜ミ或ハ妻其亡夫ノ物ヲ盜ミ或ハ尊屬卑屬ノ親相盜ニ或ハ以上同級ノ親族相盜ム等ハ刑律ニ入ラス唯償還ヲ爲サシム可キノミトス

若シ外人ニシテ前文ノ盜ニ與ニスル者或ハ其物件ヲ藏匿スル者ハ常律ニ據テ論ス可シ

第一套 暴行及ヒ恐喝ヲ用ヒサル盜

第四百六十三條 凡ソ本章ニ開載スル事情外ニ於テ行フ盜ハ一月ヨリ五年マテノ獄ニ處シ二十六フランクヨリ五百フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ

第四百六十四條 凡ソ婢僕其主人ノ物件若クハ其主家ニ在ル他人ノ物件若クハ其主人ニ隨行シ他ノ家ニ至ル時其家ニ在ル人ノ物件ヲ

盜ム者或ハ工人若クハ其徒其主人ノ家或ハ工作場或ハ倉庫ニ於テ盜ム者或ハ常ニ人ノ住家ニ工作シ其家ニ於テ盜ム者等ハ皆十三月以上ノ獄ニ處ス可シ

第四百六十五條 凡ソ前條ノ盜賊ハ本刑ノ外第三十三條ノ奪權ニ處シ尙ホ二年ヨリ五年マテノ警察ヲ受ケシムルコアリ

第四百六十六條 凡ソ前數條ノ法ヲ犯サントシテ成テサル者ハ八日ヨリ三年マテノ獄ニ處シ二十六フランクヨリ三百フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ

第四百六十七條 凡ソ左ノ盜ヲ行フ者ハ監役ニ處ス可シ

破壊或ハ超越或ハ偽鍵ヲ用ヒテ盜ム者  
官吏其官職ニ依テ盜ム者

賊若クハ賊中ノ一人官吏ノ名號或ハ官吏ノ表記ヲ用フル者或ハ官



命ヲ詐稱スル者

第二套 暴行恐喝劫迫ヲ用フル盜

第四百六十八條 凡ソ暴行若クハ恐喝ヲ以テ盜ム者ハ監役ニ處ス可シ

第四百六十九條 凡ソ盜賊既ニ財物ヲ取り得或ハ逃走ヲ容易ニセシトシテ追捕ヲ拒ミ暴行恐喝ヲ爲ス者ハ皆テ暴行恐喝ヲ用フル盜ト稱ス可シ

第四百七十條 凡ソ錢貨財物動産及ヒ書券ナブリカーシヨシ證票領收狀契約書署名書等總テ必要ニ屬スル書券契約書請取證書類ヲ劫掠スル者ハ皆テ第

四百六十八條ニ據テ論シ強盜ト同シ

第四百七十一條 凡ソ人ノ居宅若クハ其附屬ノ所ニ於テ暴行若クハ恐喝ヲ用ヒテ盜ミ左ニ掲グル五者ノ一ヲ兼ヌル者ハ十年ヨリ十五

年マテノ懲役ニ處ス可シ

一 破壊超越或ハ偽鍵ヲ用ヒテ盜ム者

二 官吏其官職ニ依テ盜ム者

三 賊或ハ賊中ノ一人官吏ノ名號若クハ官吏ノ表記シルシヲ用ヒテ盜ム者

若クハ官命ト偽リテ盜ム者

四 夜間二人以上ニテ盜ム者

五 兇器ヲ持スル者

若シ以上ノ二事ヲ兼ヌル者ハ十五年ヨリ二十年マテノ懲役ニ處ス可シ

第四百七十二條 凡ソ公路ニ於テ暴行若クハ恐喝ヲ用ヒ盜ム者ハ十年ヨリ十五年マテノ懲役ニ處ス可シ



若シ前條五者ノ一ヲ兼ヌル者ハ十五年ヨリ二十年マテノ懲役ニ處ス可シ

第四百七十三條 凡ソ第四百六十八條四百六十九條四百七十條四百

七十一條及ヒ四百七十二條ノ法ヲ犯シ因テ篤疾癡疾機器損失或ハ

重傷ニ致ス者ハ十五年ヨリ二十年マテノ懲役ニ處ス可シ

若シ其人ヲ拷打スル者モ罪同シ

第四百七十四條 凡ソ暴行恐喝ヲ爲シ誤テ殺ス者ハ終身懲役ニ處ス可シ

夜中ニ人ノ居宅若クハ大道ニ於テ數人共ニ暴行恐喝スル者モ罪同シ

第四百七十五條 凡ソ盜若クハ劫ノ爲メ或ハ跡ヲ滅セント欲シ故殺

スル者ハ死刑ニ處ス可シ

第四百七十六條 凡ソ意外ノ景況ニ阻セラレ盜或ハ劫ヲ果サハルモ

第四百七十三條及ヒ四百七十四條ノ犯罪ハ其本刑ニ處ス可シ

第三套 本章通用語

第四百七十七條 凡ソ公路ト稱スル者ハ衆人往來ノ道ヲ云フ

人家ノ間ニ通スル徑及ヒ鐵路ハ公路ニ屬セス

第四百七十八條 凡ソ夜中盜ヲ爲スト稱スル者ハ日没後一時ヨリ日

出前一時マテノ盜ヲ云フ

第四百七十九條 凡ソ居宅住屋ト稱スル者ハ家屋諸建物室房座等ヲ

云フ又總テ假リ小屋類ノ轉移ス可キ者モ住居ニ充ル者ハ皆ナ此名

稱ニ屬ス可シ

第四百八十條 凡ソ居宅ノ附屬ト稱スル者ハ中庭ハスノール鳥獸等

所ノ圍圍ガランシ稻麥等ノ收入廐等總テ離垣内ニ在ル者ヲ云フ或ハ

總籬笆中ニ小籬笆ノ設ヲ爲ス者モ亦此類ニ屬ス可シ



第四百八十一條 凡ソ郊野ニ在ル假リノ牧場モ其場内ニ獸畜ノ番人小屋アル者ハ皆ナ居宅ノ附屬トス可シ

第四百八十二條 凡ソ第三十五條ニ掲ケル所ノ器具ハ皆ナ兇器トス

第四百八十三條 凡ソ暴行ト稱スル者ハ力ヲ以テ人ノ身體ヲ苦ムルヲ云フ

恐喝ト稱スル者ハ人ヲ迫リ其心ヲ恐怖セシムルヲ云フ  
形ニ加フルヲ暴行トシ  
心ニ加フルヲ恐喝トス

第四百八十四條 凡ソ破壊ト稱スル者ハ衝突シ折毀シ打破シ舟車及ヒ家屋等内外部ノ垣ヲ去リ又閉ナタル函櫃篋子類總テ家財ヲ納ムルノ器ヲ打破スル者ヲ云フ

第四百八十五條 凡ソ前條ニ云フ所ノ家財ヲ盜ム者

緘印ヲ毀テ盜ム者モ破壊シテ盜ム者ニ屬ス可シ

第四百八十六條 凡ソ籬垣門戶室房及ヒ其他牆屏ヲ越ヘ家屋中庭園圍牧場等ノ内ニ入ル者

地道ノ如キ通常出入ニ備ヘサル所ヨリ入ル者等ハ皆ナ超越シ入ルト稱ス可シ

第四百八十七條 凡ソ鉤鍵ヲ開クニ用フル具ニシテ「ロシニヨル」鉤ノ一種ハ「パスパルツ」何所ノ

鍵フ似セハ偽造或總テ其錠ニ備ヘサル鍵

紛失シタル鍵盜マレタル鍵等ヲ總稱シテ偽鍵ト云フ

破壊ニ依リ罪狀ノ重キニ從フ可キ物件ヲ偽鍵ヲ用ヒテ開ク者ハ皆ナ其重キニ從フ可シ  
エフシクシヨシ シルコンダンス アクリラント

別殊ノ箇條

第四百八十八條 凡ソ不良ノ心ヲ抱キ鍵ヲ偽造若クハ變造スル者ハ



三月ヨリ二年マテノ獄ニ處シ二十六フランクヨリ二百フランクマ

テノ罰金ヲ命ス可シ  
若シ錠ノ工人コシテ偽錠ヲ造ル者ハ二年ヨリ五年マテノ獄ニ處シ  
二百フランクヨリ一千フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ

第二章 欺詐

第一套 分散

第四百八十九條 凡ソ商法ヲ以テ論シ有罪分散トナル者ハ

尋常分散ハ一月ヨリ二年マテノ獄ニ處ス可シ

詐テ分散スル者ハ監役ニ處ス可シ

第四百九十條 凡ソ分散人ノ爲メニ益ヲ圖リ其動靜財産ヲ持チ出シ  
若シハ藏匿スル者

分散ニ會シ詐テ債主ト唱ヘ或ハ人ヲシテ唱ヘシメ或ハ債額ヲ詐ル

者

分散人或ハ他ノ人ト約條シ分散會議ノ入札ニ於テ利ヲ圖ル債主若

クハ他ノ者ト約條シ分散人ノ財ヲ過分ニ取ラント圖ル債主

後見人ノ其處分中ニ財物ヲ私スル者

以上ハ皆十一月ヨリ二年マテノ獄ニ處シ一百フランクヨリ三千フ

ランクマテノ罰金ヲ命ス可シ

第二套 擅信

第四百九十一條 凡ソ物件貨幣、商品、商價證票、紙幣、請取書及ヒ其他義

務若シハ免務證券ノ依託ヲ受ケ之ヲ返ス可キヲ約シ或ハ之ヲ他人

ニ交付ス可シト約シ或ハ之ヲ某ノ事ニ用ユ可キヲ約シナカラ之ヲ

私ニ利シ或ハ自カラ用ヒテ寄放人<sup>アツケル</sup>ニ損失セシムル者ハ一月ヨリ五

年マテノ獄ニ處シ二十六フランクヨリ五百フランクマテノ罰金ヲ



命ス可シ

以上ノ犯人ハ本刑ノ外尙ホ第三十三條ノ奪權ニ處スルコトアリ

第四百九十二條 凡ソ第四百六十二條ノ法ヲ以テ前條ノ輕罪ニ酌決スルヲ得可シ

第四百九十三條 凡ソ幼者ノ窮迫怯弱若シハ情慾ニ乘シ契約證券領收狀、商牌諸種借用切手類ノ物稱等ヲ書シ署名セシムル者ハ三月ヨリ五年マテノ獄ニ處シ二十六フランクヨリ五百フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ

此等ノ犯人ハ尙ホ第三十三條ノ奪權ニ處スルコトアリ

第四百九十四條 凡ソ人ノ情狀窮迫ナル等ヲ察シ財物ヲ貸シ定則外ノ利ヲ圖ル者ハ一月ヨリ一年マテノ獄ニ處シ一千フランクヨリ一萬フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ或ハ此一刑ニ處ス可シ

第四百九十五條 凡ソ裁判所ニ證券或ハ文書ヲ出シ争フ所ノ證左ト

シ爾後之ヲ詐欺ニ依テ失ハシムル者ハ二十六フランクヨリ三百フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ

此刑ハ其證ヲ得タル裁判所之ヲ申渡ス可シ

第三套 欺詐財ヲ奪フ

第四百九十六條 凡ソ無實ノ事ヲ告ケ詐謀ヲ巧ミニシ人ヲ信セシメ因テ錢貨、財物、借用券、請取券、拂方證左等ヲ欺キ取ル者ハ一月ヨリ五年マテノ獄ニ處シ二十六フランクヨリ三千フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ

且ツ第三十三條ノ奪權ニ處スルコトアリ

第四百九十七條 凡ソ本價ノ賤キ貨幣ヲ金銀貨幣ニ裝成セシメ用フル者及ヒ用ヒントスル者



貨幣ニ非サル金屬ノ片ヲ以テ貨幣トシ用フル者及ヒ用ヒントスル者等ハ八日ヨリ三年マテノ獄ニ處シ五十フランクヨリ五百フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ

第四百九十八條 凡ソ買主ヲ欺クニ詐術ヲ行ヒ約定スル所ノ物品ニ

同シカラサル物品ヲ與フル者

若クハ約定スル所ノ物品ト外見ヲ等フシテ本質同シカラサル者ヲ

與フル者ハ皆ナ一月ヨリ一年マテノ獄ニ處シ五十フランクヨリ一

千フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ

第四百九十九條 凡ソ詐謀ヲ用ヒ賣品ノ數量ヲ欺ク者ハ八日ヨリ一

年マテノ獄ニ處シ二十六フランクヨリ一千フランクマテノ罰金ヲ

命ス可シ

第五百條 凡ソ賣物ノ飲食料ヲ變質シ若クハ變質セシムル者

八

以上變質物品ヲ知テ販賣スル者及ヒ販賣セントシテ展肆スル者

印刷書若クハ書寫等ニテ掲壁シ或ハ其他ノ方法ヲ用ヒ以上物質變

造ノ術ヲ公告スル者等ハ皆ナ八日ヨリ一年マテノ獄ニ處シ五十フ

ランクヨリ一千フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ或ハ此一刑ヲ科ス

可シ

第五百一條 凡ソ飲食料ノ賣物ヲ其變質物タルヲ知テ貯フル者ハ八

日ヨリ六月マテノ獄ニ處シ二十六フランクヨリ五百フランクマテ

ノ罰金ヲ命ス可シ或ハ此一刑ヲ科ス可シ

第五百二條 凡ソ前二條ノ犯ニ於テハ裁判官其罪案ヲ揭示シ且ツ其

全文若クハ概要ヲ新聞紙ニ載セ公布スルヲ命スルヲアリ揭示ノ場

所及ヒ新聞紙ハ裁判官ノ擇ミニ從フ可ク揭示及ヒ新聞紙書載ノ入

費ハ犯人ニ辨セシム可シ



若シ犯人六月以上ノ獄ニ坐スル者ハ其職業免狀ヲ奪ヒ受刑中ハ更ニ他ノ免狀ヲ與フ可カラス

第五百三條 凡ソ飲食料ノ變質物ハ皆ナ官ニ没入ス可シ

没入シタル飲食料ノ猶ホ用ニ堪ユ可キ者ハ其犯罪ノ邑廳ニ納メ邑中貧院救恤院等ノ用ニ供ス可シ其用フ可カラサル者ハ直ニ棄ツ可シ

第五百四條 凡ソ第四百九十七條四百九十八條及ヒ四百九十九條ノ

犯ハ第四百六十二條ニ據テ論スルヲ得可シ

第四套 輕重罪ヲ犯シ得タル物件ヲ藏匿ス

第五百五條 凡ソ輕重罪ヲ犯シテ強奪若シハ私利セル物品ノ全數又

ハ數奇ヲ藏匿スル者ハ十五日ヨリ五年マテノ獄ニ處シ二十六フランヨリ五百フランマテノ罰金ヲ命ス可シ

此等ノ犯人ハ尙ホ第三十三條ノ奪權ニ處シ且ツ二年ヨリ五年マテ

ノ警察ヲ受ケシムルヲアリ

第五百六條 凡ソ本犯死刑若クハ終身懲役ニ該ル者ハ狀ヲ知リ其財

物ヲ藏匿スル者ハ監役ニ處ス可シ

第五套 欺詐雜犯

第五百七條 凡ソ家資分散人若クハ其他ノ者自己ノ益ヲ圖リ分散ノ

物件或ハ借財引當ト爲シタル物件ヲ壞リ若クハ之ヲ他ニ匿スアレハ八日ヨリ二年マテノ獄ニ處シ二十六フランヨリ五百フランマテノ罰金ヲ命ス可シ

第五百八條 凡ソ左ニ載ル犯人ハ八日ヨリ二年マテノ獄ニ處シ二十

六フランヨリ五百フランマテノ罰金ヲ命ス可シ

他人ノ動産ヲ偶然認メ漫リニ己レノ有ト爲シ詐欺ヲ以テ之ヲ別人



ニ與ヘ若クハ藏匿ナル者  
偶然ノ所ニ財物ヲ發見シ得テ其一部ヲ法ニ據リ本主ニ與ヘス私利  
ナル者

第五百九條 凡ソ空名ヲ虚設シ或ハ負債者ナラサル人或ハ拂フ能ハ  
サル人或ハ拂フヲ許諾セサル人ヲ名宛トシ爲替切手ヲ造リ錢貨財  
物ヲ得ル者ハ一月ヨリ二年マテノ獄ニ處シ二十六フランクヨリ三  
千フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ  
然レモ其先方ニ於テ此金高ヲ拂フ平又ハ爲替タル者此金高ヲ拂フ  
ハ其先方ヨリ訴ヘ出ルニ非サレハ之ヲ裁判スルヲ得ス又已ニ裁判  
ニ附スル時モ之ヲ停ムルヲ要ス可シ  
若シ其先方ヨリ訴フル時ハ右犯人ヲ十五日ヨリ三月マテノ獄ニ處  
シ二十六フランクヨリ三百フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ或ハ此

一刑ニ處ス可シ

第三章 破壞毀損

第一套 放火

第五百十條 凡ソ左ノ犯ハ皆ナ十五年ヨリ二十年マテノ懲役ニ處ス  
可シ

廈屋船艦鋪店工作場及ヒ其他人ノ住所ニシテ其内ニ一人若クハ衆  
人アルノ時放火スル者

人民ノ集會ニ用ユル廈屋ヲ集會ノ時ニ當リ放火スル者

總テ人ノ住所ニ非サルモ臨時ノ景況ニ因リ其廈屋内ニ一人若クハ  
衆人有ルヲ知リ放火スル者

第五百十一條 凡ソ第五百十條ニ載ル廈屋船艦等ヲ同條ニ擧グル景  
況ノ外ニ放火スル者及ヒ山林若クハ田野ニ生植スル耕作物ヲ燒ク



者ハ十年ヨリ十五年マテノ懲役ニ處ス可シ  
假令ヒ此等ノ物品固ヨリ放火人ノ有タルモ其不良心ニ因テ燒キシ  
ハ一年ヨリ五年マテノ獄ニ處シ二百フランクヨリ一千フランクマ  
テノ罰金ヲ命ス可シ

第五百十二條 凡ソ收獲シタル稼物或ハ斫出シ積聚シタル材木ヲ燒  
ク者ハ監役ニ處ス可シ

若シ伐木ノ未タ收集セサル者ヲ燒ク者ハ一年ヨリ五年マテノ獄ニ  
處シ五十フランクヨリ五百フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ

若シ收納物若クハ材木ノ主人ニシテ不良心ニ因リ之ニ放火スル者  
ハ

此條ノ第一ノ場合ニ在テハ六月ヨリ三年マテノ獄ニ處シ五十フラ  
ンクヨリ五百フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ

第二ノ場合ニ在テハ三月ヨリ二年マテノ獄ニ處シ二十六フランク  
ヨリ二百フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ

第五百十三條 凡ソ第五百十條五百十一條及ヒ五百十二條ノ犯夜間  
ニ在ル者ハ

十五年ヨリ二十年マテノ懲役ヲ終身懲役トス

十年ヨリ十五年マテノ懲役ヲ十五年ヨリ二十年マテノ懲役トス

監役ヲ十年ヨリ十五年マテノ懲役トス

第五百十一條第二段ニ掲グル獄及ヒ罰金ハ監役トス

第五百十二條第三段ニ掲グル獄及ヒ罰金ハ其第一段ノ場合ニ於テ  
ハ一年ヨリ四年マテノ獄ニ處シ一百フランクヨリ一千フランクマ  
テノ罰金トス

第二段ノ場合ニ於テハ六月ヨリ三年マテノ獄ニ處シ五十フランク



ヨリ五百フランク「マテ」ノ罰金トス

第五百十四條 凡ソ放火獄ニ該ル犯ヲ爲サント試ムル者ハ二月ヨリ  
二年マテノ獄ニ處シ二十六フランクヨリ二百フランク「マテ」ノ罰金  
ヲ命ス可シ

第五百十五條 凡ソ前諸條ノ犯ハ本刑ノ外尙ホ第三十三條ノ奪權ニ  
處シ二年ヨリ五年マテノ警察ヲ受ケシムルコトアル可シ

第五百十六條 凡ソ第五百十條五百十一條及ヒ五百十二條ニ載ル物  
件ヲ放火スルニ先ツ其近隣ニ在ル物品ニ火ヲ放チ因テ延焼ニ致ス  
者ハ其物件ヲ直ニ放火スル者ト同罪トス

第五百十七條 凡ソ二物中一物ヲ放火スレハ必ス他ノ一物ヲ延焼ス  
可キ位置ニ在ルニシテ其一物ヲ放火シ延テ他ノ一物ニ及フ時ハ二  
物中其重キ者ニ依テ論シ罪ヲ科ス可シ

第五百十八條 凡ソ物件ノ内ニ人有ルヲ知テ放火シ因テ其人ヲ傷ス  
ル者ハ謀傷律ト放火律トヲ照準シ其重キニ依テ論シ罪ヲ科ス可シ  
若シ放火律謀傷律ヨリ重キニ該ル者ハ其監役若クハ有期懲役ニ該  
ルハ尙ホ其最モ重キ者ニ二年ヲ加フ可シ  
若シ其人ヲ死ニ致ス者ハ死刑ニ處ス可シ

第五百十九條 凡ソ竈鐵匠鋪烟突等總テ火ヲ用フル廬屋等ノ修覆及  
ヒ掃除ヲ怠リ因テ出火シ人ノ動靜財産ヲ延焼スル者或ハ家屋山林  
叢藪植附場所籬稿草等總テ燃ユ可キ物質ノ蓄所ヨリ一百メートル  
「我三尺三寸」一以內ノ地ニ放火シ人ノ動靜財産ヲ延焼スル者若ク  
ハ提燈若クハ棄置キタル燈火若クハ漫リニ花火ヲ飛シ人ノ動靜財  
産ヲ燒ク者ハ八日ヨリ三月マテノ獄ニ處シ二十六フランクヨリ五  
百フランク「マテ」ノ罰金ヲ命ス可ク或ハ此一刑ニ處ス可シ



第五百二十條 凡ソ破裂物ヲ用ヒ家屋、船艦、車、涼車、倉庫、製作場等ヲ放  
火シ或ハ放火セントスル者ハ皆テ前數條ニ照シ其區別ニ從テ論シ  
各其罪ヲ科ス可シ

第二套 造營物蒸氣器械及ヒ電信器械ヲ破毀ス

第五百二十一條 凡ソ廈屋、橋梁、堤防、鐵路及ヒ其他人ノ有スル所ノ建  
築物ヲ破壞若シハ顛覆スル者ハ其方法如何ヲ論セス又其全部ナル  
ト一部ナルトヲ論セス皆テ監役ニ處ス可シ

第五百二十二條 凡ソ前條ノ犯罪ハ第五百十八條ノ律ニ照シ論スル  
ヲ有ル可シ

第五百二十三條 凡ソ他人ノ蒸氣器械ヲ破壞スル者ハ十五日ヨリ三  
年マテノ獄ニ處シ五十フランクヨリ五百フランクマテノ罰金ヲ命  
ス可シ

器械ノ全部又ハ一部其用ヲ失フ乎或ハ器械ニ依テ運動スル者ノ其  
用ヲ失ハシムルヲ破壞ト稱ス可シ

第五百二十四條 凡ソ電信線ヲ妨害シ其通信ヲ絶ツ者ハ其方法如何  
ヲ論セス皆テ一月ヨリ三年マテノ獄ニ處シ五十フランクヨリ五百  
フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ

第五百二十五條 凡ソ前條ノ犯ヲ多人數或ハ兇徒群聚或ハ暴行或ハ  
衝突或ハ恐喝ニ依テ行フ者ハ監役ニ處ス可シ  
其首長及ヒ挑撥人ハ十年ヨリ十五年マテノ獄ニ處シ五百フランク  
ヨリ五千フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ

第三套 墳墓碑觀製作物及ヒ證券記錄書類ヲ破毀ス

第五百二十六條 凡ソ  
墳墓碑石



造營物、立像及ヒ其他公益若シハ美觀ノ爲メ官立又ハ官ノ免許ヲ得  
テ建ル者

寺觀若シハ公場ニ設クル所ノ造營物立像畫額及ヒ其他製作物ヲ破  
壞シ毀損スル者ハ八日ヨリ一年マテノ獄ニ處シタフロー二十六フランクヨ  
リ五百フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ

第五百二十七條 凡ソ簿籍官ノ原文書或ハ其草稿證書、證票、爲替切手、  
商價證票、銀行證券等總テ義務契約領收狀等ニ關スル文書ヲ毀棄ス  
ル者ハ本篇第一章ノ以上諸件ヲ盜ム律ニ據テ論ス可シ

第四套 諸賣品及ヒ其他ノ動産ヲ破毀ス

第五百二十八條 凡ソ暴行或ハ恐喝ヲ用ヒテ他人ノ動産ヲ破毀スル  
者ハ八日ヨリ三年マテノ獄ニ處シ二十六フランクヨリ五百フラン  
クマテノ罰金ヲ命ス可シ或ハ此一刑ヲ科ス可シ

第五百二十九條 凡ソ前條ノ犯ヲ多人數或ハ兇徒群集ニ依テ爲ス者  
ハ監役ニ處ス可シ

其首長及ヒ挑撥人ハ十年ヨリ十五年マテノ懲役ニ處ス可シ

第五百三十條 凡ソ人ノ居宅或ハ其附屬所ニ於テ暴行恐喝ヲ用ヒ或  
ハ第四百七十一條ニ載ル狀ノ一ヲ兼テ行フ動産破壊ハ十年ヨリ十

五年マテノ懲役ニ處ス可シ

若シ兇徒群集ニ依テ行フ者ハ十二年以上ノ懲役ニ處ス可シ

其首長及ヒ挑撥人ハ十五年ヨリ二十年マテノ懲役ニ處ス可シ

第五百三十一條 凡ソ暴行恐喝ヲ以テ破壊毀損シ人ヲ第四百條ニ載  
ル如キ疾病若シハ折傷ニ致ス者ハ罪前二條ニ載ル刑ニ一等ヲ加フ  
可シ

第五百三十二條 凡ソ破壊毀損ヲ容易ニセントシ或ハ其跡ヲ隠サン



トシテ人ヲ殺ス者ハ死刑ニ處ス可シ

第五百三十三條 凡ソ製造ニ用フル商品ヲ不良心ニ因テ變質シ或ハ其品位ヲ下ス者ハ一月ヨリ一年マテノ獄ニ處シ二十六フランクヨリ三百フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ

若シ製造家、製作場或ハ商家ノ監守雇工等ニシテ法ヲ犯ス者ハ六月ヨリ三年マテノ獄ニ處シ五十フランクヨリ五百フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ

第五百三十四條 凡ソ舟車ノ通行ヲ限ル爲メノ設ケナル繩索等ヲ不良心ニ因テ去リ或ハ絶ツ者ハ八日ヨリ二年マテノ獄ニ處ス可シ

第五套 耕作物植物苗穀物及ヒ農具ヲ毀損若クハ荒掠ス

第五百三十五條 凡ソ天造生及ヒ人造生ノ菓實植物ヲ不良心ニ依テ荒ス者ハ一月ヨリ三年マテノ獄ニ處シ二十六フランクヨリ五百フ

ランクマテノ罰金ヲ命ス可シ

第五百三十六條 凡ソ種ヲ蒔キタル田地ヲ不良心ニ依テ荒ス者或ハ田畑ニ惡種ノ草及ヒ其他ノ植物ノ種ヲ蒔ク者或ハ農具牧場及ヒ田舎等ヲ破毀スル者ハ一月ヨリ二年マテノ獄ニ處シ二十六フランクヨリ二百フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ

第五百三十七條 凡ソ樹木ヲ折傷シ枯レシムル者或ハ桧木ヲ折ル者ハ樹木一本ニ付キ八日ヨリ三月マテノ獄ニ處シ二十六フランクヨリ一百フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ

桧木一本ニ付テハ八日ヨリ十五日マテノ獄ニ處シ二十六フランクヨリ五十フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ或ハ此一刑ニ處ス可シ然レハ獄三年罰金五百フランクヲ超ユ可カラズ

第六套 獸類ヲ殺傷ス



第五百三十八條 凡ソ馬及ヒ車ヲ挽キ又ハ物ヲ負フニ堪ユ可キ獸、角ノ生タル獸、羊、野牛、家猪等ヲ毒殺スル者ハ三月ヨリ二年マテノ獄ニ處シ二十六フランクヨリ三百フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ

第五百三十九條 凡ソ河流、濠溝、小川、沼池、水溜等へ魚ヲ殺サント要シ毒物ヲ流ス者ハ八月ヨリ三月マテノ獄ニ處シ二十六フランクヨリ三百フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ

第五百四十條 凡ソ第五百三十八條ニ載ル獸畜ヲ需要ナキニ殺シ或ハ重創ヲ負ハスル者ハ左ノ如ク罪ヲ科ス可シ

若シ獸主ノ家屋藩籬内及ヒ其附屬ノ地又ハ其田畑等ニ於テ殺ス者ハ一月ヨリ六月マテノ獄ニ處シ五十フランクヨリ三百フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ

若シ犯人己レノ家屋藩籬内又ハ其田地ニ於テ殺ス者ハ八月ヨリ二

る

月マテノ獄ニ處シ二十六フランクヨリ一百フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ

此他ノ場所ニ於テ殺ス者ハ十五日ヨリ三月マテノ獄ニ處シ五十フランクヨリ二百フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ

第五百四十一條 凡ソ第五百三十八條ニ載ル獸畜外ノ家畜ヲ其主人ニ屬スル地ニ於テ無益ニ殺シ又ハ重創ヲ負ス者ハ八月ヨリ三月マテノ獄ニ處シ二十六フランクヨリ二百フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ或ハ此一刑ニ處ス可シ

其他馴シタル獸類或ハ繫キタル獸類及ヒ家畜ヲ其主タル者ノ權利ニ屬スル地ニ於テ當然使役スルニ當リ之ヲ殺ス者モ前犯ト同罪トス

第五百四十二條 凡ソ前數條ノ犯ニ於ケル籬垣ヲ侵シテ殺ス者ハ第



二百六十六條ニ循テ論シ加等ス可シ

第七套 以上諸套通用法

第五百四十三條 凡ソ此章第五套及ヒ第六套ニ載スル所ノ律ヲ犯ス

官吏私怨ヲ披キ在職ニ依テ犯ス者タル歟又ハ夜間ニ犯ス者タレハ

第二百六十六條ニ循テ加等ス可シ

第五百四十四條 凡ソ此章第二套ヨリ第六套ニ至ルマテニ載ル所ノ

律ヲ犯ス兩度ニ及フ者再犯律ニ據リ二年ヨリ五年マテノ警察ヲ受

ケシムルコアル可シ

第八套 墻垣ヲ破リ或ハ疆界標ヲ棄テ或ハ之ヲ移轉ス

第五百四十五條 凡ソ墻溝ノ全部ヲ埋メ或ハ一部ヲ埋ムル者或ハ生

籬若クハ枯垣ヲ破リ若クハ之ヲ棄ル者或ハ街衢田野ノ障界類ヲ壞

ル者或ハ境界ノ標石ヲ去リ若クハ之ヲ轉移スル者或ハ地界標タル

樹木ヲ去リ之ヲ移ス者等ハ皆十八日ヨリ六月マテノ獄ニ處シ二十

六フランシヨリ二百フランクマテノ罰金ヲ命ス可ク若クハ此一刑

ヲ科ス可シ

第五百四十六條 凡ソ若シ他人ノ領地ヲ奪ハントスルノ目的ニ依リ

以上ノ犯ヲ爲ス者ハ一月ヨリ一年マテノ獄ニ處シ五十フランクヨ

リ二千フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ

第九套 水ヲ灌キ破壊ス

第五百四十七條 凡ソ不良心ヲ以テ礦場ノ全部又ハ一部ニ水ヲ入ル

者ハ十年ヨリ十五年マテノ懲役ニ處ス可シ

若シ此犯人其臨時ニ礦穴中一人以上ノ人有ルヲ知テ水ヲ入ル者

ハ十五年ヨリ二十年マテノ懲役ニ處ス可シ

第五百四十八條 凡ソ前條ノ犯ニ於テハ第五百十八條ヲ以テ論シ罪



ヲ科スルコアル可シ

第五百四十九條 凡ソ不良心ヲ以テ他人ノ田地ニ水ヲ入ル、者ハ二十六フランクヨリ三百フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ

第五百五十條 凡ソ地主佃戶及ヒ其他總テ風車鑄造所若クハ池沼等ヲ有スル者定規外ニ水ヲ高メ他人ノ田地若クハ道路ニ水ヲ入ル、者ハ五十フランクヨリ五百フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ  
若シ其物件ヲ毀損スルニ致ス者ハ罰金ノ外尙ホ八日ヨリ一月マテノ獄ニ處ス可シ

第十篇 違警

第一章 第一種違警

第五百五十一條 凡ソ左ニ掲クル違警ハ二フランクヨリ十フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ

第一 竈鐵匠鋪烟突温室竈等總テ火ヲ用フル所ノ修覆掃除ヲ怠タル者

第二 燈火ヲ點ス可キヲ怠タル者

第三 住民ニシテ村邑等街路ノ掃除ヲ受任シ之ヲ怠タル者

第四 已ムヲ得サルノ情實ナク又其委員ノ免許ヲ請ハス材木及ヒ總テ他ノ物件ヲ横タヘ又ハ窪所ヲ穿チ公然ノ道路等ヲ妨クル者

第五 街路ニ諸物件ヲ置キ又ハ之ヲ掘リ夜中點燈ス可キヲ怠タル者

第六 徑路ニ關スル規則命令國法等ノ施行ヲ拒ミ若クハ怠タル者

第七 家屋等頽壞ニ垂ンタル者ヲ修造若クハ除去ス可キノ命令ヲ受ケ之ヲ怠タリ若クハ拒ム者

第五百五十二條 凡ソ左ニ掲クル違警モ一フランクヨリ十フランク